

平成26年度

公立大学法人広島市立大学の業務実績に係る評価結果

平成27年8月

広島市公立大学法人評価委員会

公立大学法人広島市立大学の各事業年度における業務実績の評価方法及び基準について

1 法人による自己評価

- (1) 年度計画の記載事項ごとの実施状況を以下の5段階により自己評価し、評価理由と併せ、実績報告書に記載の上評価委員会に提出する。

評価の記号	実施状況の説明
s	質・量双方において年度計画を上回って実施されている。
a	質・量いずれか一方において年度計画を上回って実施されている。ただし、他方において年度計画を下回って実施されている場合を除く。
b	質・量双方において年度計画どおり実施されている。
c	質・量いずれか一方において年度計画を下回って実施されている。ただし、他方において年度計画を上回って実施されている場合は、双方の実施状況を総合的に勘案して「b」とすることができる。
d	質・量双方において年度計画を下回って実施されている。

- (2) 年度計画の小項目及び大項目ごとの自己評価についても(1)と同様とする。

2 評価委員会による評価

(1) 小項目評価

ア 「中期計画の達成に向けて、各事業年度の業務を順調に実施しているかどうか」という観点から、法人による自己評価を踏まえつつ、年度計画の内容の妥当性も含めて、小項目ごとに以下の5段階により評価する。

評価の記号	実施状況の説明
S	質・量双方において年度計画を上回って実施されている。
A	質・量いずれか一方において年度計画を上回って実施されている。ただし、他方において年度計画を下回って実施されている場合を除く。
B	質・量双方において年度計画どおり実施されている。
C	質・量いずれか一方において年度計画を下回って実施されている。ただし、他方において年度計画を上回って実施されている場合は、双方の実施状況を総合的に勘案して「B」とすることができる。
D	質・量双方において年度計画を下回って実施されている。

イ 評価委員会の評価が法人による自己評価と異なる場合は、その理由等を示すものとする。

(2) 大項目評価

小項目評価を踏まえ、大項目ごとに以下の5段階により評価するとともに、特筆すべき事項等があればその旨のコメントを記載する。なお、評価の記号ごとに以下の評点を付す。

評価の記号	実施状況の説明	評点
S	質・量双方において年度計画を上回って実施されている。	5
A	質・量いずれか一方において年度計画を上回って実施されている。ただし、他方において年度計画を下回って実施されている場合を除く。	4
B	質・量双方において年度計画どおり実施されている。	3
C	質・量いずれか一方において年度計画を下回って実施されている。ただし、他方において年度計画を上回って実施されている場合は、双方の実施状況を総合的に勘案して「B」とすることができる。	2
D	質・量双方において年度計画を下回って実施されている。	1

(3) 全体評価

大項目ごとに以下の評価比率を配分し、大項目評価の評点を加重平均（評点×評価比率を合計）した結果を基に評価する。また、法人による実績報告書の記述等を踏まえ、中期計画の実施状況に係るコメントを記載する。

大項目	評価比率
第2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 教育	20%
2 学生への支援	10%
3 研究	15%
4 社会貢献	15%
5 国際交流	10%
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	15%
第5 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置	
第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置	
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	15%

評価の基準	評価の記号等
4. 5 < X	S 法人の業務は、中期計画の達成に向けて極めて順調に実施されている。
3. 5 < X ≤ 4. 5	A 法人の業務は、中期計画の達成に向けて順調に実施されている。
2. 5 < X ≤ 3. 5	B 法人の業務は、中期計画の達成に向けて概ね順調に実施されている。
1. 5 < X ≤ 2. 5	C 法人の業務は、中期計画の達成に向けて十分に実施されていない。
X ≤ 1. 5	D 法人の業務には、中期計画を達成するために重大な改善事項がある。

※ Xは大項目評価の評点×評価比率の合計

公立大学法人広島市立大学 平成 26 年度業務実績に係る評価

全体評価

評価の記号

A：法人の業務は、中期計画の達成に向けて順調に実施されている。

評価コメント

平成 26 年度は、評価の大項目全てが A という過去最高の評点結果となった。法人化後、まず国際学部と情報科学部が先導する形で改革が進められてきたが、その後の芸術学部と平和研究所の大胆な改革、更には各学部基礎を置く大学院研究科の強化等がここに来て実を結び始めた結果であるといえる。一方この間も、教育機関として最も重要な「学生募集」と「就職」が順調に推移し、全体として「学生を中心に据えた」新構想の多様な取組が定着し、また新たな見直し・改善の好循環が随所に見えている。教育研究担当者の真摯な努力の跡が当年度においても顕著である。

当年度は中期計画の 5 年度目に相当し、中期計画全体の総括を行うとともに、この実績を踏まえて、その後次期中期計画を構想することになる。第 1 期中期計画期間全体にわたる長期取組課題の一つとして、国際化推進の基盤をなす「留学生支援」問題があった。留学生の居住スペースの確保が極めて困難であったことに端を発し、期末剰余金の毎年の積立目的を留学生寮の建設に絞り、その構想を芳醇^{ほうじゅん}に発酵させてきた。そして当年度、学内の意見を幅広く収集し、日本人学生との混住型であると同時に教育の場としても活用できる「国際学生寮」の整備計画案を策定した。この寮施設がキャンパス内に建設予定であることから、その一部は合宿形式の授業や短期滞在者の利用にも供せられる予定とされている。この長期にわたる取組を結実させた当年度、この小項目の評価は S であった。

法人化後 5 年間で展開された多様な教育研究改革はおおむね学生にも受け入れられてきた。その経緯は、授業アンケート結果の推移や学生の自発的な取組の増加等として見ることができる。また、社会貢献においても学外機関との連携や学外へ進出しての活動形態が多様化し、新たな教育機会の場が形成されてきているとも言える。

現在検討中の次期中期計画の内容に関して、また文系学部・大学院改革の一環としても、今期中期計画中に試みた取組を精査し活かし継承して、情報化・グローバル化等の激動する社会環境を先取りする形で、学生が修得すべき知識やスキル的高度化と実務化を図っていくことが期待される。

最後に、大学運営において、学長を始め教員・事務員の変わらぬ真摯な取組を疑う余地はないが、運営における質の追究を大前提として、意思決定の迅速化に対しても、格段の配慮を払うべきことを付言しておく。

組織、業務運営等に関する改善事項等について

組織、業務運営等に関し、特に改善を勧告すべき点はない。

全体評価（評点）

大項目名	評価の記号 (大項目評価)	※1 評点 (α)	評価比率 (β)	$\alpha \times \beta$	評価の記号 (全体評価)
第2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置					
1 教育	A	4	20%	0.8	
2 学生への支援	A	4	10%	0.4	
3 研究	A	4	15%	0.6	
4 社会貢献	A	4	15%	0.6	
5 国際交流	A	4	10%	0.4	
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	A	4	15%	0.6	
第5 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置	—				
第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置	A				
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	A	4	15%	0.6	
計				※2 4.0	A

※1 「評点」は「評価の記号（大項目評価）」と連動する。S=5点、A=4点、B=3点、C=2点、D=1点

※2 「全体評価の記号」はこの数値（ $\alpha \times \beta$ の計）と連動する。

全体評価の記号	S	A	B	C	D
$\alpha \times \beta$ の計(=X)	$4.5 < X$	$3.5 < X \leq 4.5$	$2.5 < X \leq 3.5$	$1.5 < X \leq 2.5$	$X \leq 1.5$

項目別評価（総括表）

評価項目	評価の記号
第2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 教育	A
(1) 教育内容の充実	
ア 全学共通教育	A
イ 特色ある教育	B
ウ 学部専門教育	B
エ 大学院教育	A
(2) 教育方法の改善	
ア 授業内容及び授業方法の改善	B
イ 学習環境及び学習支援体制の整備	A
ウ 成績評価システムの整備	A
(3) 積極的な広報と学生の確保	
ア 積極的な広報	—
イ 学生の確保	A
(4) 教育実施体制の整備	
ア 教職員の配置等	B
イ 教育環境の整備	A
ウ 芸術情報の利用環境の整備	A
2 学生への支援	A
(1) 学習支援	—
(2) 日常生活支援	B
(3) 健康の保持増進支援	—
(4) 就職支援	A
(5) 課外活動支援	—
(6) 経済的支援	—
(7) 留学生支援	S
3 研究	A
(1) 研究活動の活性化と成果の普及	
ア 研究活動の活性化	A

評価項目	評価の記号
イ 研究成果の普及及び還元	A
(2) 研究体制の強化	B
4 社会貢献	A
(1) 生涯学習ニーズへの対応	A
(2) 「産学公民」連携の推進	
ア 地域産業界との連携	A
イ 国、地方自治体等との連携	A
ウ 学術機関及び研究機関との連携	A
エ 小中高等学校等との連携	A
(3) 社会連携センターの機能の充実	
ア 社会連携センターの体制整備	—
イ 学部及び研究科の「産学公民」連携や社会貢献の取組に対する支援	B
ウ 研究成果、学内資源等の活用	B
エ 学生の育成	A
5 国際交流	A
(1) 海外学術交流協定大学との人材交流の積極的な展開	A
(2) 留学生への支援体制の充実	—
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	A
1 運営体制	—
2 人事	—
3 事務処理	A
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	A
1 自己収入の増加	B
2 管理経費の抑制	A
第5 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置	—
第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置	A
1 施設及び設備の適切な維持管理等	A
2 安全で良好な教育研究環境の確保	A

項目別評価

中期目標	中期計画	平成26年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
第2 教育研究等の質の向上に関する目標 1 教育に関する目標	第2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 教育（大項目）		<p>大項目評価</p> <p>中期計画に掲げる重点取組項目である「全学共通教育の充実」を始めとして、教育に関する様々な取組を実施した。</p> <p>全学共通教育においては、学生に読書や美術鑑賞、映画鑑賞を通じて専門分野を越えた幅広い教養を身に付けさせる「いちだい知のトライアスロン」事業を引き続き実施し、多数の学生が参加した。また、最難関の「トライアスロンコース」を完走した学生が初めて誕生し、「知の鉄人」として表彰した。「CALL 英語集中」については、継続的な改善に取り組み、システム改修等により学習効果の向上を図った。</p> <p>学生が国際的に活躍する人材と交流する機会として、外務省職員や国際NGO活動の経験者等を講師とする講演会や特別講義等を計8回実施した。</p> <p>学部・大学院教育においては、内容の更なる充実に向け、アンケートの分析などを通じ、国際学部では第2期中期計画を念頭に置いた将来構想の検討を行い、情報科学部では独自の就職ガイダンスや語学力及びコミュニケーション能力向上のための集中英語研修の開催に取り組んだ。芸術学研究科では漆工文化財保存修復の専門教員により文化財保存学特講の充実を図った。また、教員によるガイダンス等のほか、作品展示の開催により大学院生及び修了生の研究成果を身近に見ることのできる場を設けることで、学生の大学院進学意欲を向上させ、定員の確保に努めた。</p> <p>教育環境の更なる向上を図るため、ラーニングコモンズ、アートシアター、フォトスタジオの新設、芸術学部棟・工房棟のスタジオや情報処理センター・語学センターの各教室の改修を行った。ラーニングコモンズは、正課・課外の双方で利用が進むとともに、国連写真展を始めとした様々な行事の実施により、積極的な活用を図った。また、フォトスタジオを利用した高精細解像度での撮影により、芸術資料館所蔵品データベースが質的に向上し、芸術情報の利用環境の整備が促進された。さらに、各附属施設の連携の下、イベントの共同開催や貸出用パソコン使用可能エリアの拡大等学生サービスの充実に取り組ん</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>教育全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 26 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
(1) 教育内容の充実 全学共通教育では、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を含め、グローバル化や情報化の進展等時代の潮流に対応できる能力を身に付けさせる教育を行う。	(1) 教育内容の充実 ア 全学共通教育（小項目） (ア) 自律的学習能力やコミュニケーション能力等の養成を図るため、初年次教育において、特定の学術分野を定めず多様な問題について少人数のセミナー形式で調査研究し、討論する科目を開設する。 (イ) 学生に、読書や美術鑑賞、映像鑑賞を通じて専門分野を越えた幅広い教養を身に付けさせる「いちだい知のトライアスロン」事業を実施する。 (ウ) 外国語によるコミュニケーション能力の向上を図るため、外国語教育の充実を図る。 (エ) 全学共通教育のあり方について、全学的視点から検討し、その結果をカリキュラム等に反映させる仕組みを構築する。	○科目「基礎演習」の実施結果の評価、科目内容の見直し ○「いちだい知のトライアスロン」事業の実施及び総括 ○見直し後の「英語応用演習」に係る教員・学生アンケート調査の実施 ○「CALL 英語集中」の検証、改善 ○情報科学部において実施する「e ラーニング 英語」の検証、改善	だ。 以上のように、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。			
			小項目評価 ○「基礎演習」を実施し、平成 25 年度に引き続き開催した全学共通教育委員会委員長・副委員長と「基礎演習」担当教員との合同懇談会において、平成 26 年度も順調に当該科目を実施したとの評価を行った。 また、各学部の若手教員を中心としたワーキンググループを立ち上げ、「基礎演習」の充実に向けて「市大アクティブ・ラーニングモデル」を検討した。 加えて、アクティブ・ラーニングがどの程度行われているのかを把握するため、アンケート調査を実施した。 ○学生に読書や美術鑑賞、映画鑑賞を通じて専門分野を越えた幅広い教養を身に付けさせる「いちだい知のトライアスロン」事業（平成 22 年度創設）を、以下の改善を行った上で実施した。 「チャレンジコース」においては、指定図書のうち最低限読む冊数を緩和し、取り組みやすさを工夫した。 出張講座については、授業での呼び掛けなどのきめ細かい広報に努め、参加学生数が大幅に増加した。10 月には、最難関の「トライアスロンコース」を完走した学生（4 年生）が初めて誕生し、「知の鉄人」として表彰・周知するとともに、あらためて本事業の広報に努めた。 ※トライアスロンコース 自分のペースで読書、美術・映画鑑賞に取り組み、当該図書等を薦める「おススメコメント」を作成する。図書 50 点、映画 25 点、美術展覧会 15 点を含む全 120 点を鑑賞すると完走となる。 【事業実績】 ・4 月～：基礎演習と連携して「スタートアップコース」を実施 ・10 月～：教養演習と連携して「チャレンジコース」を実施 ・教員の推薦図書・映画や関連する資料等を紹介する「知のトライアスロンコーナー」を、附属図書館の館内改修の際に 1 階オープンエリアに拡大・移設 ・本学芸術資料館、ひろしま美術館、広島市映像文化ライブラリー及び広島県立美術館において、教員の解説を聞いて作品を鑑賞する出張講座を開催（全 5 回）	a	〔評価理由〕 全学共通教育について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。 〔コメント〕 ○「いちだい知のトライアスロン」事業への継続的な取組は評価できる。今後も引き続き、有意義かつインパクトの大きな取組に育てていくべきだ。	A

中期目標	中期計画	平成 26 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<ul style="list-style-type: none"> ・語学センターにおいて、映画の連続上映会を実施（全 10 回） ・広島市内の大型書店において、学生によるブックハンティングを実施（全 2 回） ・附属図書館において、図書展示（知のトライアスロンテーマ別展示 6 回、出張講座関連展示 5 回）を実施 <p>【参加学生数等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トライアスロン参加学生数：425 名（スタートアップコース 424 名、チャレンジコース 1 名） （平成 25 年度：429 名（スタートアップコース 427 名、チャレンジコース 2 名）） ・出張講座参加学生数：160 名（平成 25 年度：26 名） ・語学センター映画上映会参加学生数：190 名（平成 25 年度：210 名） ・学生への図書貸出数：24,957 冊（平成 25 年度：24,290 冊） ・感想レポート数：666 件（平成 25 年度：620 件） <p>○「CALL 英語集中」について、履修者が自らの学習履歴をより客観的に把握できるシステムに改修する等、学習効果を高めるための改善を行った。具体的には、学習カレンダーにより、学習をした日としなかった日が確認できるシステム、各問の正誤結果に加え、回答に要した学習時間が確認できるシステムとした。</p> <p>○情報科学部において実施する「e ラーニング英語」について、質疑応答に即答できないという課題のある e ラーニングの短所を解決するため、授業中に教員が別室で待機し、学生が個別かつ自由に質問や相談ができる「イングリッシュ・クリニック」を開設し、教材や英語全般について質問しやすい環境を整備した。</p> <p>以上のように、全学共通教育の充実に大きく貢献する優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
「国際平和文化都市」を都市像とする広島市の設立した公立大学法人が設置する大学として、平和に関する教育を積極的に推進するとともに、学生が国際性を養う機会の充実を図	<p>イ 特色ある教育（小項目）</p> <p>(ア) 平和に関する教育を推進するため、平和研究所が全学の平和関連講義等に積極的に参画する。</p> <p>(イ) 国際性を養うため、学生が異文化に触れる機会や国際的に活躍する人材と交流する機会の充実を図る。</p>	○平和研究所の教員が全学の平和関連講義等に参画	<p>小項目評価</p> <p>○平和に関する教育を推進するため、全学共通系科目である広島・平和科目 5 科目のうち、4 科目を平和研究所の教員 5 名が担当した。また、夏期集中講座「HIROSHIMA and PEACE」に、同研究所の教員 3 名が参加した。</p> <p>○夏期集中講座「HIROSHIMA and PEACE」について、平成 26 年度のアンケート調査結果を踏まえ、「紛争解決論」、「朝鮮半島における安全保障問題」といった新しい講義を取り入れるなど、カリキュラムの見直しを行い、科目を充実した。また、海外参加者への</p>	b	<p>【評価理由】</p> <p>特色ある教育の充実のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>【コメント】</p> <p>○努力は大いに認められるが、文字どおり他大学には見られない「特色」が望まれる。</p>	B

中期目標	中期計画	平成 26 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
る。	<p>a 夏期集中講座「HIROSHIMA and PEACE」の充実を図る。</p> <p>b 平和記念式典やピースキャンプ（国内外の平和記念式典参列者のために大学運動場内に開設するキャンプサイトをいう。）等多数の外国人が参加する行事への学生の積極的な参加を促す。</p> <p>c 学生が国際機関や国際的 NGO 等の第一線で活躍する人材と交流する機会の充実を図る。</p>	<p>○カリキュラム内容等に関するアンケート調査の実施</p> <p>○アンケート結果を踏まえたカリキュラム内容等の見直し</p> <p>○異文化に触れることができる行事の学生への情報提供</p> <p>○国際的に活躍する者を講師とする講演会の開催</p>	<p>ケアに取り組みつつ、教職員の負担を軽減するよう事務の見直しを行った。</p> <p>○教職員を対象として、異文化に触れることができる行事の実施予定について調査をし、当該調査の結果に加え、広島市が実施している関連行事の情報をウェブサイト及び学内に掲示した。さらに、新入生の入学ガイダンスにおいてこれらの情報を記載した資料を配付し、学生への情報提供に努めた（学内での講演会情報や学外でのイベント等、提供件数 20 件）。</p> <p>○学生が国際機関や国際的 NGO 等で活躍する人材と交流する機会として、国際的に活躍する者を講師とする講演会や特別講義等を 8 回（平成 25 年度：9 回）開催した。</p> <p>以上のように、特色ある教育を充実するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>		○組織改革に続き、内容の充実に取り組んでいると認められる。	
学部専門教育では、各学部の理念と専門分野の特色に対応した効果的な専門教育を行う。	<p>ウ 学部専門教育（小項目）</p> <p>(ア) 学生の多様化に対応するとともに、社会で通用する実践的な能力を身に付けた学生を養成するため、学部専門教育の充実に取り組む。</p> <p>a 国際学部では、平成 19 年度（2007 年度）に導入した新教育課程について、教育内容と成果に関する学内アンケート調査等を行い、必要に応じて見直しを行う。</p> <p>b 情報科学部では、平成 19 年度（2007 年度）に導入した情報工学、知能工学、システム工学の三学科の一括募集及び学科配属方法等に</p>	<p>○国際的に活躍する者を講師とする講演会の開催</p> <p>○学生に対するアンケート調査、教員に対する意識調査等の実施</p> <p>○学科配属に関するアンケート調査の実施</p> <p>○学科説明会や配属決定方法等の改善</p>	<p>小項目評価</p> <p>○学生の多様化に対応するとともに、社会で通用する実践的な能力を身に付けた学生を養成するため、以下のとおり国際学部及び情報科学部において学部専門教育の充実に取り組んだ。</p> <p>①国際学部では、平成 26 年 4 月に東京周辺に在住する卒業生に対するアンケート調査及び教員に対するアンケート調査を実施し、その結果を 4 月・5 月の教授会においてそれぞれ発表した。全体として、国際学部で幅広い視点から学際的に学べたことに対して良い評価が得られた。また、第 2 期中期計画を念頭に置いた将来計画ワーキンググループを組織し、検討を重ね、報告書を取りまとめた（10 月）。この中では、学部教育の質の一層の強化を図ること、特に、基礎演習・発展演習の見直し、英語による専門科目の拡充などを検討結果として報告している。</p> <p>②情報科学部では、学部 1 年生及び 2 年生に対し、一括募集及び学科配属に関するアンケート調査を実施した。多くの学生は現在の方法が良いと回答した。</p> <p>また、学科配属対象の学生に各学科の特色や教育内容をより丁</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>学部専門教育の充実のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○アンケート調査の結果に基づき活動実態（教育内容）の改善に努めている。ただし、その内容については、もう一工夫してもらいたい。</p>	B

中期目標	中期計画	平成 26 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>ついて学内アンケート調査等を行い、必要に応じて見直しを行う。</p> <p>また、多様化した学生への効果的な教育を実現するため、「PDCA」サイクルを機能させながら継続的に教育活動の改善に取り組む。</p> <p>c 芸術学部では、芸術の持つ社会的役割を深く認識し、社会の中で表現活動を実践できる素養を身に付けさせるため、研究プロジェクトへの参画を単位認定する「造形応用研究」の充実を図り、学科・領域を越えた総合的な教育を行う。</p>	<p>○卒業生が就職した企業等にヒアリング、アンケート調査を実施</p> <p>○ヒアリング及びアンケート結果を踏まえた教育内容の改善</p>	<p>寧に伝えるため、平成 25 年度から学科配属説明会の時間枠を拡大し、併せて全学科統一の「オープンラボ期間」（研究室を見学できる期間）を設定している。これらの取組が好評であったことから、引き続き実施するとともに、平成 26 年度は学科配属希望調書の提出日を「オープンラボ期間」と整合させるなどの改善を行った。</p> <p>また、情報科学部独自の取組として、就職活動スケジュールの繰下げなど、就職環境の変化に対し、就職活動を支援する教員や保護者が正確な知識を得るため、就職情報関連企業に依頼し、教員向け就職支援セミナーを実施するとともに、保護者向けの進路説明会を、学部 1 年生（入学時）の保護者に加え、学部 3 年生・大学院博士前期課程 1 年生の保護者にも実施した。さらに、企業へのヒアリングの結果、実践的な語学力及びコミュニケーション能力が必須であるとの意見が多く寄せられたことから、外部講師による実践的な集中英語研修を実施した（学部 4 年生及び大学院博士前期課程 1 年生対象コース、学部 3 年生対象コース）。</p> <p>以上のように、学部専門教育を充実するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>			
<p>大学院教育では、それぞれの専門分野における優れた研究能力と高度な専門知識に加えて、学際的視野と国際性を身に付けさせ、国際社会や地域の発展に貢献できる研究者及び高度専門職業人を養成する。また、広島の高専教育研究機関としての存在価値を明確に示すため、「平和学」の構築を実現する。</p>	<p><u>エ 大学院教育（小項目）</u></p> <p>(ア) 学際的視野と国際性を身に付けさせるため、大学院における共通教育のあり方について検討し、大学院全研究科共通科目の見直しを行う。</p> <p>(イ) 学生の多様化に対応するとともに、専門分野において優れた研究能力と実践的技能を身に付けた学生を養成するため、大学院専門教育の充実に取り組む。</p> <p>a 国際学研究科では、専門基礎科目の見直しを行う。</p> <p>b 情報科学研究科では、学部カリキュラムとの連携を</p>	<p>○全研究科共通科目の点検、見直し</p> <p>○組込みソフトウェア関連科目のモデルカリキ</p>	<p><u>小項目評価</u></p> <p>○全研究科共通科目の一部について、履修がしやすくなるように開講時期の変更（集中講義から通常時間割への変更、開講時限の変更）を行った。</p> <p>○学生の多様化に対応するとともに、専門分野において優れた研究能力と実践的技能を身に付けた学生を養成するため、以下のとおり大学院教育の充実に取り組んだ。</p> <p>①国際学研究科では、平和学の学位授与のための大学院教育の見直しを図るため、将来計画ワーキンググループを組織し、報告書として取りまとめた（10月）。そこでは、ブラッドフォード大学（イギリス）との協力関係の構築、新規採用教員の平和学専門科目への登用などによる体制強化に取り組むこととしている。その取組の一つとして、10月にブラッドフォード大学の教授を招聘して公開シンポジウムを開催した。</p> <p>②情報科学研究科では、組込みソフトウェア関連科目のカリキュラムについて、講義内容と演習課題の連動を深めることなどを目的に、「組込みソフトウェア実装・シミュレーション特論」</p>	a	<p>【評価理由】</p> <p>大学院教育について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>【コメント】</p> <p>○各研究科とも、内容の充実地道に取り組んでいる。</p> <p>○当該項目の取組は評価できるが、やはり基本は学部教育だと思うので、学部教育についてもこうした取組が一層望まれる。</p>	A

中期目標	中期計画	平成26年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>図り、学習課題を複数の科目を通して体系的に履修するモデルカリキュラムを提示し、その履修による教育効果を評価する。また、論文執筆、学会発表等におけるプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力等高度専門職業人に必要な能力を身に付けさせるため、教育内容の充実を図る。</p> <p>c 芸術学研究科では、文化芸術の保存の分野における高度な専門能力を養成するため、保存科学・文化財学に関する授業科目「文化財保存学特講」を新設し、段階的に拡充を図る。</p> <p>(ウ) 全学的な協力体制を整備し、「平和学」の構築を実現する。</p> <p>a 平和研究所と国際学研究科が連携し、「平和学」のカリキュラムを確立するとともに、「平和学」の学位(修士、博士)を授与する。</p> <p>b 「平和学」のカリキュラムが、留学生に対しても魅力あるものになるよう、英語による講義の充実を図る。</p>	<p>ユラムによる教育効果の評価、改善</p> <p>○プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力等の強化のための教育内容の評価、改善</p> <p>○「文化財保存学特講」の実施、授業内容の充実</p> <p>○「平和学」の学位授与のための体制強化</p> <p>○英語による履修が可能な「平和学」科目の内容の充実に係る検討</p>	<p>及び「組込みソフトウェア実装特別演習」の開講時期をともに後期から前期に変更した上で、同一の担当者が担当し、内容の連動した講義と演習を行うこととした。また、「製品企画プロジェクト特別演習」の開講時期を前期から後期に変更し、上記2科目の受講後に最終段階として履修できるカリキュラムに改善した。これらの改善の効果について、「製品企画プロジェクト特別演習」で学生自らが企画・設計したシステムの達成度を指標として評価したところ、授業順序の変更による教育効果の向上が認められた。</p> <p>外部講師による実践的な集中英語研修(対象：大学院進学予定者と大学院博士前期課程1年生)を、平成25年度に引き続き学生が受講しやすい12月下旬(冬季休業中)に開講した。27名が受講し、全日程に参加した学生のうち90%でTOEICを模した試験のスコアが上昇した。また、大学院推薦入試の受験を希望する学部3年生を対象とした集中英語研修を、2月後半(学年末休業中)に新たに実施した。23名が受講し、全日程に参加した学生の全員でTOEICを模した試験でスコアが上昇した。</p> <p>学外研究活動旅費等に係る補助金給付制度を活用し、56名の学生が学外で研究発表等を行い、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力等の強化を図った。</p> <p>③芸術学研究科では、保存科学、装飾、絵画、漆工などの保存修復や文化財学に関わる「文化財保存学特講」を実施した。平成26年度に漆工文化財保存修復及び総合的な保存科学を専門とする教員を新たに採用し、当該教員が「文化財保存学特講」を総括することにより、各講義に関し、解説をより専門的に加えることが可能となり、難解な講義の理解を深めることができるようになった。また、九州国立博物館で行った学外授業では、最新の分析機器や設備等を用い、高度な専門知識を学ぶ内容とするなど、授業内容の充実を図った。</p> <p>以上のように、専門分野において優れた研究能力と実践的な技能を身に付けた学生の育成を図るため優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
(2) 教育方法の改善 各学部及び研究科の教育目標を実現し、学生にとって魅	(2) 教育方法の改善 <u>ア 授業内容及び授業方法の改善(小項目)</u> 本学の教育方針に沿った	○学生・教員に対する授業アンケートの実施 ○授業改善に関する研修	小項目評価 ○本学の教育方針に沿った教育を推進し、学生の視点に基づいた授業内容及び授業方法の改善を図るため、7月～9月(前期)及び	b	〔評価理由〕 授業内容及び授業方法の改善についての取組を計画どおり着	B

中期目標	中期計画	平成26年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>力ある授業を提供するため、授業内容や授業方法の改善を図る。</p> <p>また、学生が自主的かつ主体的に学習に取り組むことができるよう、学習環境や学習支援体制を整備する。</p> <p>さらに、授業科目の到達目標と成績評価基準を明示すると</p>	<p>教育を推進し、学生の視点に基づいた授業内容及び授業方法の改善を図るため、授業アンケートの実施、セミナーの開催等のFD活動（Faculty Development：教員の教育能力を高めるための組織的取組をいう。）を積極的に行う。</p> <p>イ 学習環境及び学習支援体制の整備（小項目）</p> <p>(7) 新入生の大学への適応が円滑に進むよう、オリエンテーションの充実を図るとともに、チューターによるきめ細かい学習支援及び相談を行う体制を整備する。</p> <p>(イ) インターネットを通じて、時間、場所を選ばず、授業の補習ができるよう、また、学生のみならず市民に対しても学習機会の提供ができるよう、授業、公開講座等様々な教育研究活動をデジタルアーカイブ化し、コンテンツの充実を図る。</p> <p>(ウ) 学生が自習やグループ学習等のために使用することができるよう、学生ラウンジや自習室等を整備する。</p> <p>ウ 成績評価システムの整備（小項目）</p> <p>(7) 成績評価の厳格化と単</p>	<p>会（FD研修会）の開催</p> <p>○教育研究活動のデジタルアーカイブ化</p> <p>○自習室等のパブリックスペースの整備</p> <p>○ラーニング commons の整備</p>	<p>1月～2月（後期）に学生及び教員に対し授業アンケートを実施した。</p> <p>○授業改善や教育活動等に関する研修会を開催した。さらに、平成26年度から、事務局職員が講師となる研修会を新たに企画し、実施した。</p> <p>以上のように、授業内容及び授業方法の改善のための取組を着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>		<p>実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p>	
			<p>小項目評価</p> <p>○教育環境の更なる向上を図るため、芸術学部棟・工房棟、各附属施設の設備の充実に取り組み、授業や授業時間外における学生の学習環境を整備した。</p> <p>○学生の自習スペースの確保と能動的な学修の促進のため、10月に附属図書館内に対話学習が可能なラーニング commons を整備した。県内最大規模のスペースを確保し、魅力的な構成となるよう公募型コンペティションを実施して整備した。広報パンフレットを作成し、司書が学生の利用をサポートするとともに、ビブリオバトルの開催、就職活動ワークショップの開催など、利用促進に努めた。その結果、学生の日常的なグループ学習等での利用のほか、講義、ゼミ、ディベート大会等授業での利用、留学報告会や国連写真展を始めとしたイベントの開催など、施設の特色を活かして多種多様に利用されている（1日の平均利用者数は100名程度）。</p> <p>以上のように、学習環境及び学習支援体制を整備するための優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>学習環境及び学習支援体制を整備するための優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○学生の教育のための改革を着実に進めている。</p> <p>○成果の見えにくい部門ではあるが、学生がどう感じているかをデータ化し、活性化の状況が分かるようにしてもらいたい。</p>	A
			<p>小項目評価</p> <p>○芸術学部では、平成24年度に設定した方針の下、平成26年度も卒業・修了制作の優秀賞作品を中心にデータベース化に努めた。</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>成績評価システムの整備について優れた取組を実施したと認</p>	A

中期目標	中期計画	平成26年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>ともに、学生の学習意欲の向上につながる成績評価システムを整備する。</p> <p>(3) 積極的な広報と学生の確保</p> <p>広島市立大学のイメージ戦略を策定し、ホームページ、刊行物等の充実を図ることにより、効果的な広報を行う。また、広島市立大学の建学の基本理念及び使命に沿い、「国際的な大学」及び「市民の誇りとなる大学」として、留学生及び社会人学生の受入れを積極的に進める。</p>	<p>位の実質化を図るため、GPA（Grade Point Average：履修科目ごとの成績に評点を付けて全科目の平均値を算出する成績評価システムをいう。）の導入、履修登録単位数の上限や成績評価基準の見直しを行う。</p> <p>(イ) 芸術学部では、教育効果を測る指標とするため、課題制作作品や入選入賞作品の画像データ等をデータベース化する。</p> <p>(3) 積極的な広報と学生の確保</p> <p><u>ア 積極的な広報（小項目）</u></p> <p>(ア) ホームページの内容の充実を図るとともに、管理及び運用のためのルールを整備する。</p> <p>(イ) オープンキャンパス、高校進路指導担当教員説明会等において、高校生、高校進路指導担当教員、保護者等にアンケート調査等を行い、その分析結果を広報活動に反映させる。</p> <p>(ウ) 大学院案内の内容を見直すとともに、英語版を作成する。</p> <p>(エ) 地域住民、受験生、在学生等に対するアンケート調査等から本学に対するイメージ分析を行い、ブランドイメージ戦略を構築するとともに、タグライン（広告</p>	<p>○データベースの本格運用及び教育効果の検証</p>	<p>卒業・修了制作の優秀賞が確定した2月上旬から作業に着手し、優秀賞の発表に合わせて本学ウェブサイト上で公開した。優秀賞作品は、画像データに加え、優秀賞の選定理由を公開することで、教育成果の最終目標値を明らかにするとともに、その指針を示すものとした。データベースの整備により、学生の制作意欲の向上を促すことに繋がっている。</p> <p>以上のように、教育効果を測る指標とするためのデータベースの本格運用を開始し、成績評価システムの整備に係る優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>		<p>められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○芸術学部の継続的な取組が、効果を発揮し始めたことを評価したい。</p>	

中期目標	中期計画	平成26年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>等で用いるキャッチフレーズをいう。)、シンボルデザイン等を作成する。</p> <p><u>イ 学生の確保 (小項目)</u></p> <p>(ア) 社会人学生について、修学年限、授業料等学生納付金を柔軟に設定できる制度を導入し、社会人が履修しやすい環境を整備する。</p> <p>(イ) 国際学研究科では、優秀な留学生を確保するため、海外学術交流協定大学の学生を対象とした推薦入試を実施する。</p> <p>(ロ) 芸術学研究科では、大学院進学者を確保するため、大学院の教育研究や大学院修了後の進路等についてのガイダンス、大学院研究成果の発表展示会の開催等の取組を進める。</p>	○大学院ガイダンスの充実及び芸術資料館における作品展示の実施	<p><u>小項目評価</u></p> <p>○芸術学研究科では、大学院生及び修了生の研究成果を身近に見ることのできる場を設けるなどの取組を行い、前年度を上回る実績を挙げた。</p> <p>【実績】</p> <p><ガイダンス等の実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・随時:進学希望学生を対象とした担当教員によるガイダンス(日本画・油絵・彫刻) ・7月:学部生を対象としたプレ修了制作作品のプレゼンテーション(造形計画) ・7月:大学院作品展示と公開講評(染織造形) ・7月:旧日本銀行広島支店での院生作品の展示(視覚造形) ・10月:博士前期課程 芸術理論研究分野説明会(芸術理論) ・11月:大学院進学ガイダンス(日本画) ・12月:学部生等に対する修了制作の公開(造形計画) ・1月:大学院進学ガイダンス(彫刻) ・1月:「展示演習」(大学院生の展示を学部生に見せる。)(日本画) <p><芸術資料館における作品展示(大学院生及び修了生の作品を展示)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月:「新収蔵作品展」 ・7月:「卒業・修了優秀作品展」 ・10月:「新任教員展」(本学の助教に着任した修了生の作品を展示) ・10~11月:「広島市立大学開学20周年記念 活躍する卒業生未来をつくる展」 ・1月:「博士後期課程本審査作品展」(2回) ・2月:「第18回卒業・修了作品展」 <p>【大学院入学試験実施状況(平成27年4月入学)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士前期課程(募集人員30名) 志願者数42名、入学者数33名 ・博士後期課程(募集人員6名) 志願者数8名、入学者数6名 	a	<p>【評価理由】</p> <p>学生の確保について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成26年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
(4) 教育実施体制の整備 学生が多様化や社会の変化に速やかに対応するとともに、広島市立大学の教育に関する目標を実現するために必要な教育実施体制を整備する。	(4) 教育実施体制の整備 ア 教職員の配置等(小項目) (ア) 大学の教育目標を実現するため、全学的かつ中期視点から教職員を戦略的かつ機動的に任用し、配置する。 (イ) 学生が多様化に対応したきめ細かい教育を実施するため、ティーチングアシスタント(大学院生が教育の補助を行う制度をいう。)、リサーチアシスタント(大学院生が研究の補助を行う制度をいう。)等の教育支援体制を整備、拡充する。 イ 教育環境の整備(小項目) (ア) 学生が多様なニーズ等に的確に対応するため、各附属施設間の連携を強化し、情報共有、施設及び設備の共同利用、イベントの共同開催等に取り組む。 (イ) すべての講義室において視聴覚教材が使用できる環境を整備する。 (ウ) 平和研究所の教育への参画、平和研究所と各学部及び研究科との連携を強化するため、平和研究所の大学敷地内への移転に取り組む。	○教育支援体制の整備・拡充に係る検討 ○イベントの共同開催 ○ラーニングcommonsを活用したイベントの検討	<p>以上のように、学生の確保について優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
			小項目評価 ○教育支援体制の整備・拡充のため、第2期中期計画の策定に向け以下の事項について検討を行った。 【検討内容】 ・外国人留学生や留学経験のある日本人学生による外国語TA制度の導入 ・教員の研究補助と大学院博士後期課程在籍者の経済支援の観点からのRA制度の導入 ・チューターによる学生支援の充実 ・上級生による下級生の支援制度(ピア・サポート制度)の導入 ・全学的なりメディア教育実施体制の構築 以上のように、教職員の配置等の取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。	b	【評価理由】 教職員の配置等についての取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。 【コメント】 ○重要な改革だと思う。	B
			小項目評価 ○学生が多様なニーズ等に的確に対応するための取組として、「いちだいのトライアスロン」関連事業の実施に当たり、附属図書館、語学センター及び芸術資料館が連携し、出張講座や映画上映会を始め、内容の充実したイベントの共同開催を行った。また、附属図書館と情報処理センターの貸出用ノートパソコンの使用可能エリアを拡大し、相互利用を開始した。さらに、情報処理センター及び語学センターの設備の充実、ラーニングcommons、アートシアター、フォトスタジオ等の新設を行い、イベントがより開催しやすい環境を整備した。 ○ラーニングcommonsを活用したイベントを多数実施した。学内への幅広い呼び掛けにより、ラーニングcommonsの積極的な利用を促した。 以上のように、教育環境の整備について優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。	a	【評価理由】 教育環境の整備について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。 【コメント】 ○「学習環境及び学習支援体制の整備」と取組内容が重なっている部分があり、教員から働き掛ける取組を更に増やすことが望まれる。	A

中期目標	中期計画	平成 26 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
2 学生への支援に関する目標 すべての学生が心身ともに健康で充実した大学生活を送ることができるよう、学習や生活環境、健康管理、進路、課外活動等様々な面で適切な支援を行う。	<u>ウ 芸術情報の利用環境の整備（小項目）</u> (7) 芸術資料館の所蔵品をデータベース化するなど、芸術情報を有効に利用することができる環境を整備する。 (4) 学生に専門分野を越えた幅広い教養を身に付けさせるため、芸術資料館の企画等による美術鑑賞事業を実施する。 <u>2 学生への支援（大項目）</u>	○フォトスタジオの整備 ○所蔵品のコンテンツの充実 ○美術鑑賞事業の実施	<u>小項目評価</u> ○10 月に芸術学部棟内にフォトスタジオを整備し、新たに写真映像教務員を採用した。これにより、従来外部のカメラマンに委託していた所蔵品の高精細な撮影を学内で行うことが可能となり、所蔵品のデータベース化に係る経費が軽減された。 ○新たに整備したフォトスタジオにおいて、所蔵品の版画 63 点をデジタル高精細解像度で撮影した。また、芸術資料館の新所蔵作品 14 点の画像及びデータを新たに本学ウェブサイトに掲載し、芸術資料館所蔵品データベースのコンテンツを充実した。 ○学生に専門分野を越えた幅広い教養を身に付けさせるため、「いちだい知のトライアスロン」関連事業として、市内の美術館との共催事業や本学芸術資料館での講演会を計 3 回実施した。 以上のように、芸術情報の利用環境の整備について優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。	a	【評価理由】 芸術情報の利用環境の整備について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。	A
			<u>大項目評価</u> 学生会館のリニューアルに係る第 1 期事業として、学生食堂の大型厨房機器の更新を行うとともに、平成 27 年度の施設改修・什器更新に向けて整備手法を決定した。 就職・キャリア形成支援においては、キャリアセンターの新設により支援体制の明確化を図るとともに、全国 11 大学との連携による「就職支援パートナーシップ制度」や、「有給長期インターンシップ」モデル事業の活用により、充実した支援を行った。 国際学生寮の整備については、施設の構造、居室の形態、整備場所等を検討し、整備計画案を策定した。整備の財源となる目的積立金の取崩し等について広島市と協議・調整を重ね、現行中期計画の変更を行うなど、整備に向けて大きく前進した。 以上のように、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。	a	【評価理由】 学生への支援全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。	A

中期目標	中期計画	平成 26 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p><u>(1) 学習支援 (小項目)</u> 新入生の大学への適応が円滑に進むよう、オリエンテーションの充実を図るとともに、チューターによるきめ細かい学習支援及び相談を行う体制を整備する。(再掲)</p>					
	<p><u>(2) 日常生活支援 (小項目)</u> 学生の日常生活を支援するため、学生会館の機能の拡充、大学周辺への店舗の誘致等に取り組む。</p>	○学生会館のリニューアル	<p><u>小項目評価</u> ○学生会館のリニューアルに係る第 1 期事業として、学生食堂の大型厨房機器 (冷蔵庫、冷凍庫、自動給茶器、ガスフライヤー、移動シンク) の更新を行った。また、平成 27 年度の施設改修・什器更新に向け、情報収集及び基本プランの作成等を行い、整備手法を決定した。 以上のように、学生の日常生活を支援するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕 学生の日常生活を支援するための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。 〔コメント〕 ○継続的な努力を評価したい。</p>	B
	<p><u>(3) 健康の保持増進支援 (小項目)</u> 学生の心身の健康の保持増進を図るため、教職員と医務室及び学生相談室との連携を強化するとともに、カウンセラーによる相談時間を増やすなど、医務室及び学生相談室の機能を拡充する。</p>					
	<p><u>(4) 就職支援 (小項目)</u> ア 教職員が連携して個々の学生の資質、希望を的確に把握し、指導する体制を整備する。 イ 卒業生による就職セミナー等学生に対する就職支援事業の企画内容を工夫するとともに、学生に対してよりきめ細かい就職関連情報を提供する。</p>	<p>○キャリアセンターの効果的運用 ○「就職支援パートナーシップ制度」活用 ○広島市と連携したインターンシップ推進</p>	<p><u>小項目評価</u> ○平成 26 年度にキャリアセンターを新設したことにより、就職・キャリア形成支援体制を明確化し、学生への支援を強化した。 ○全国 11 のパートナー大学が「就職支援パートナーシップ制度」をスタートさせ、他大学の学生を含む 3 年生計 6 名の就職支援を行った。本学の学生 4 名が名古屋市立大学、兵庫県立大学、大阪市立大学及び横浜市立大学を訪問し、就職支援を受けたほか、他大学 (北九州市立大学、兵庫県立大学) から学生 2 名を受け入れ、地元企業の求人情報や会社説明会、本学での学内合同企業セミナーの情報提供及び地元就職相談に応じた。また、パートナー大学 11 校による事務担当者会議を開催し、情報・意見交換を行い、制度の利用促進に努めた。</p>	a	<p>〔評価理由〕 学生の就職支援について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 26 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
3 研究に関する目標 研究の活性化を目指し、外部資金の積極	<p>(5) <u>課外活動支援（小項目）</u> 学生のクラブ及びサークル活動、ボランティア活動、自主的な研究、創作及び発表活動を奨励し、支援するための制度の充実を図る。</p> <p>(6) <u>経済的支援（小項目）</u> 優秀な学生に対して授業料を減免するなどの特待生制度を導入する。</p> <p>(7) <u>留学生支援（小項目）</u> 留学生の宿舎を確保するため、学生寮及び教員住宅の有効活用を図るとともに、独立行政法人日本学生支援機構の留学生借り上げ宿舎支援事業、財団法人日本国際教育支援協会の留学生住宅総合補償制度等の活用を進める。</p>	○国際学生寮（留学生宿舎）の整備手法の決定	<p>○平成 26 年度、広島市が初めて実施した「有給長期インターンシップ」モデル事業に本学から 9 名が応募し、3 名が参加した（他大学からは 9 名が参加）。インターンシップ終了後に参加学生 12 名による報告発表会が開催され、体験発表、受入企業から与えられた特定のテーマに関する提案を行い、本学の学生 2 名が「優秀賞」及び「感動賞」を受賞した。</p> <p>以上のように、本学の就職指導・支援を大きく強化する優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
			<p>小項目評価</p> <p>○国際学生寮の整備に係る組織横断的なプロジェクトチームを編成し、平成 25 年度に策定した基本方針に基づき、施設の構造、居室の形態、整備場所等を検討し、整備計画案を策定した。検討に当たっては、学生へのアンケートや教職員への意見募集、現行寮生へのヒアリング等を行い、学内の意見を幅広く収集した。</p> <p>整備の財源となる目的積立金の取崩し等については、広島市と協議・調整を行った上で、平成 27 年 3 月に、現行中期計画を国際学生寮の整備を明記した内容に変更する申請を広島市に行った。同年 5 月に広島市の変更認可を受け、設計等に着手する予定である。</p> <p>以上のように、留学生の支援のための取組として国際学生寮の早期整備に向けて大きく前進し、現行中期計画の変更につながったことは、計画を超える優れた成果であることから、「s」と評価した。</p>	s	<p>〔評価理由〕</p> <p>留学生の支援について特に優れた取組を実施したと認められることから、「S」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○国際学生寮の整備は、留学生だけでなく、日本人学生にとっても極めて有益である。</p> <p>○学生（留学生を含む。）の便益の向上を中心にこの大学が運営されている様子が見て取れる。</p>	S
<p>大項目評価</p> <p>外部資金の積極的な獲得による研究活動の活性化のため、全教員を対象とした外部資金獲得研修会や社会連携センターによる個別相談等</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>研究全般について優れた取組を実施したと認められることから</p>	A			

中期目標	中期計画	平成26年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>的な獲得と活用に努めるとともに、サバティカル制度(教員が一定期間研究に専念する研修制度をいう。)を導入する。また、地域産業の活性化につながる研究、地域課題に関する実践的な研究、平和をテーマとした研究等を重点研究分野として、個性的な研究活動や学内外との研究交流を積極的に展開し、その成果を教育に反映させるとともに、社会に還元する。</p>	<p>(1) 研究活動の活性化と成果の普及</p> <p>ア 研究活動の活性化(小項目)</p> <p>(ア) 教員の研究活動を奨励するため、サバティカル制度(教員が一定期間研究に専念する研修制度をいう。)を導入する。</p> <p>(イ) 科学研究費補助金等外部資金の申請率、採択率の向上を図る。</p> <p>(ウ) 外部資金を含めた研究費を弾力的かつ効果的に執行するための制度を導入する。</p>	<p>○外部資金獲得研修会の開催</p> <p>○外部資金の全教員申請に向けた取組に係る検討</p>	<p>を実施し、引き続き科研費の高い獲得実績を維持した。</p> <p>各学部等においては、叢書や紀要の発行、研究公開イベントへの出席や技術相談・技術指導の実施、教員・学生による展覧会の推進等により、研究成果の積極的な普及及び還元に取り組んだ。</p> <p>また、平和研究所では、「日本平和学会春季研究大会の開催」、「平和・安全保障事典の編さん」、「ヒロシマ70 平和セミナーの開催」という3つの被爆70周年記念事業について、学外研究者との連携の下、全研究員が企画に参加し、実施に向けた準備を進めた。</p> <p>以上のように、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>		<p>ら、「A」と評価した。</p>	
			<p>小項目評価</p> <p>○全教員を対象にした外部資金獲得研修会を開催した。また、科研費の申請支援策として、従来の社会連携センターでの個別相談に加え、新たにウェブサイト特設ページ「科研の相談室」を開設した。科研費の申請率・採択率ともに向上し、平成25年度と同水準の高い獲得実績を挙げた。なお、文部科学省が発表した研究分野ごとの科研費機関別新規採択累計数(平成22年度～平成26年度)において、本学が、「計算機システム」分野で第4位、「知能情報学」分野で第10位となり、当該研究分野における本学の存在感を示した。</p> <p>【科研費申請率等実績：()は平成25年度実績】</p> <p>・科研費申請率68.3%(65.6%)、採択率53.5%(50.7%)、獲得金額[間接経費を含む。]126,900千円(132,250千円)</p> <p>○情報学部及び情報科学研究科では、専攻を越えた共同研究や学外との共同研究、社会連携、外部資金獲得に繋がる可能性の高い</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>研究活動の活性化について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成26年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>(エ) 国際学部及び国際学研究科では、研究活動における学内外との連携を強化するため、客員研究員や共同研究者のための研究スペースを確保する。</p> <p>(カ) 情報科学部及び情報科学研究科では、社会へ発信する知的財産を効率的に創出するため、大学として取り組むべき基盤的研究及び時代のニーズに適合した先端的・革新的なプロジェクト研究に対し、研究費等を重点的に配分する。また、専攻を越えた共同研究や学外との共同研究に対し、教員研究費の一部を毎年度重点的に配分する。</p> <p>(カ) 芸術学部及び芸術学研究科では、展覧会の開催等の研究発表活動を積極的に推進する。</p> <p>(キ) 平和研究所では、研究活動の活性化を図るため、プロジェクト研究等への学外の研究者の積極的な参画を促進する。</p>	<p>○プロジェクト研究、共同研究に対する教員研究費の重点配分</p> <p>○外部資金の獲得による研究発表活動の促進</p> <p>○教員・学生による展覧会の開催等の研究発表活動の積極的な推進</p> <p>○学外研究者の受入促進</p> <p>○被爆70周年記念事業の準備</p>	<p>研究に対し、教員研究費の一部を重点的に配分した。</p> <p>【実績：()は平成25年度実績】</p> <p>社会連携関係1件(1件)：583千円(895千円)</p> <p>外部資金関係1件(1件)：200千円(200千円)</p> <p>○芸術学部及び芸術学研究科では、科学研究費補助金、財団助成金、受託研究等の外部資金を活用し、教員による展覧会活動、論文発表及び講演会活動等の研究発表や学生による展覧会発表を積極的に展開した。</p> <p>【実績：()は平成25年度実績】</p> <p>教員による研究発表件数：42件(44件)</p> <p>学生による展覧会発表件数：10件(5件)</p> <p>また、教員・学生による展覧会の開催等の研究発表活動を積極的に行った。</p> <p>【実績：()は平成25年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員による学内特定研究費を活用した展覧会、論文発表、講演会活動等の研究発表件数：6件(12件) ・教員による自主的な個展、グループ展、講演会活動等の研究発表件数：157件(190件) ・学生による自主的な個展、グループ展等の研究発表件数：113件(53件) <p>○平和研究所では、客員研究員の受入れを行い、研究活動の活性化を図った。また、被爆70周年記念事業として平和研究所が3つの事業(日本平和学会春季研究大会の開催、平和・安全保障事典の編さん、ヒロシマ70平和セミナーの開催)を予定しており、いずれも全研究員が企画に参加し実施に向けて準備を進めた。</p> <p>以上のように、外部資金の積極的な獲得と活用など、研究の活性化のための優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
	<p>イ 研究成果の普及及び還元</p> <p>(小項目)</p> <p>(イ) 国際学部及び国際学研究科では、研究成果普及の一環として平成20年度(2008年度)に創刊した国際学部叢書を定期的に刊行す</p>	<p>○国際学部叢書の年次刊行</p> <p>○「広島国際研究」のホームページ公開</p>	<p>小項目評価</p> <p>○国際学部及び国際学研究科では、国際学部叢書第6巻「世界の眺め方ー理論と地域からみる国際関係」を発刊した。多角的な観点から国際関係を捉える内容とし、第1部では、理論からみる国際関係というテーマで、国際社会の規範と制度、国際社会規範としての福祉問題、国際人権問題、国際安全保障論を取り上げ、第2部では、世界の地域等における事例分析を取り上げた。</p>	a	<p>【評価理由】</p> <p>研究成果の普及及び還元について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>【コメント】</p> <p>○量的には着実に増えているの</p>	A

中期目標	中期計画	平成 26 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>る。また、学内競争的資金である特定研究費を活用した共同研究の促進を図り、その成果を国際学部叢書として刊行する。さらに、開学以来刊行しているジャーナル「広島国際研究」をホームページで公開し、幅広く研究成果を社会に還元する。</p> <p>(イ) 情報科学部及び情報科学研究科では、研究公開イベントへの出展、特許出願、企業からの技術相談、共同研究等を通じて研究成果を社会に普及し、還元する。</p> <p>(ウ) 芸術学部及び芸術学研究科では、芸術資料館において卒業制作優秀作品の展示会、大学院研究成果の発表展示会の開催等を行う。</p> <p>(エ) 平和研究所では、学術研究成果を大学教育に反映させるとともに、出版活動や公開講座、シンポジウム、講演会等を通じ、その成果の社会への積極的な普及を図る。</p> <p>(オ) 附属図書館では、教員の研究成果、博士論文等を機関リポジトリ（大学等の研究機関が研究成果を電子データとして集積し、保存し、公開するためのシステムをいう。）により公開する。</p>	<p>○研究公開イベントへの出展</p> <p>○特許出願、共同研究を通じた研究成果の社会への普及・還元</p> <p>○芸術資料館における卒業制作優秀作品の展示会、大学院研究成果の発表展示会の開催</p> <p>○出版活動や公開講座、シンポジウム、講演会、紀要、ニューズレター等を通じた学術研究成果の社会への積極的な普及</p> <p>○博士論文等の機関リポジトリ登録の実施</p>	<p>○情報科学部及び情報科学研究科では、産学連携研究発表会など各種イベントへの出展等を行った（出展件数 78 件（平成 25 年度：74 件））。また、平成 26 年度からの新たな取組として、企業研究者・開発者向けの技術セミナーを情報科学部公開講座の一環として 2 件開催した。さらに、国のプロジェクトの受託研究、共同研究を実施したほか、研究成果に係る特許出願、技術相談・技術指導の実施を推進した。</p> <p>○芸術学部及び芸術学研究科では、芸術資料館において、卒業制作優秀作品の展示会及び大学院研究成果の発表展示会を多数開催した。平成 26 年度は、平成 19 年度以来 7 年ぶりに芸術資料館の年間開館日数が博物館相当施設の指定要件である 100 日を超え、107 日となった。</p> <p>○平和研究所では、学術研究成果を社会に還元するための講演会、公開講座、シンポジウムの実施、出版活動等に取り組んだ。</p> <p>○附属図書館では、博士論文等の機関リポジトリ登録を実施した。以上のように、研究成果の普及及び還元のための優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>		<p>で、これを質的な向上にも着実に結び付けることが望まれる。</p>	

中期目標	中期計画	平成26年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
4 社会貢献に関する目標 教育研究成果を社会に還元するため、社会連携センターを中心的な窓口として、学外研究機関、企業、NPO、地域コミュニティ等との交流及び連携を積極的に推進する。また、広島市の「知」の拠点としての地位を確立するため、提言、施策立案、技術供与等を通じて、地域行政課題の解決及	<p>(2) 研究体制の強化（小項目）</p> <p>ア 「産学公民」連携につながる研究を推進するため、社会連携センターにプロジェクト研究推進室を設置する。</p> <p>イ 研究費を戦略的に配分できる仕組みを構築する。</p> <p>ウ 平和研究所では、被爆体験の思想化や原爆投下による広島、長崎の被害の問題等核兵器に関する諸問題の研究を重点研究領域とした研究体制を強化する。</p> <p>エ 附属図書館では、研究における利便性を向上させるため、専門分野の電子ジャーナルやデータベースの充実を図るとともに、データベース横断検索ソフト等を計画的に導入する。</p>	<p>○日本軍縮学会、日本平和学会等、原爆や核に関する諸問題を扱う学会における研究員活動の促進</p> <p>○データベース横断検索ソフトの導入</p> <p>○収集方針に基づく電子ジャーナル等の充実</p>	<p>小項目評価</p> <p>○平和研究所では、以下のとおり学会における研究員活動を促進した。</p> <p>【実績：（ ）は平成25年度実績】</p> <p>著書・論文の発表：20件（23件）、学会・研究報告等：29件（23件）。その他、学会活動や学会誌・学術誌における責任ある職務として、編集者7件、査読者18件、学会役職12件を務めた。</p> <p>○附属図書館では平成26年10月の図書システムリプレースに併せ、データベース横断検索ソフトウェア（リンクリゾルバ）を導入した。このソフトウェアは、インターネット上の多種多様な論文、文献情報（電子ジャーナル、文献データベース、蔵書検索システムOPAC等）から、最適な入手方法を提示してくれるもので、この導入と利用紹介PRにより研究の利便性向上が図られた。導入後の半年間（10～3月）の利用は、1月の定期試験期間をピークに2,672件あった。さらに、附属図書館報「知恵の樹」（1月号）でも巻頭特集を組むなど、利用促進に向けたPRに努めた。また、外国為替相場の変動により電子ジャーナルの経費が増加したが、本数を削減することなく継続的な提供を行うことができた。</p> <p>以上のように、研究体制を強化するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>研究体制の強化のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○リンクリゾルバの導入に加え、利用促進策にも取り組んでおり、評価できる。</p> <p>○例えば、研究科横断トップ研究者グループを結成して新学際領域を開拓するなど全学的に研究体制の一層の強化が望まれる。</p>	B
			<p>大項目評価</p> <p>生涯学習ニーズへの対応では、市大英語eラーニング講座の拡充や県立広島大学との連携公開講座等の開催により、公開講座受講者数が大きく増加し、優れた実績を挙げた。</p> <p>また、キッズキャンパス、ひろしまコンピュータサイエンス塾、高等学校での体験授業等、幼児や児童生徒に対する学習支援・教育活動を展開し、参加者から高い評価を得た。</p> <p>企業等との連携では、社会連携センターを窓口を受託研究・共同研究を積極的に推進するとともに、行政機関等との連携では、共同事業の事業経費が2年連続前年度を上回った。</p> <p>芸術学部及び芸術学研究科では、広島市現代美術館との連携による卒業・修了作品展の開催を始めとした地域美術館との連携事業や、内容の充実した多数の地域展開型芸術プロジェクトを実施した。県内外において芸術による社会貢献に取り組み、芸術の社会的役割を広く地域に示した。</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>社会貢献全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成26年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>び都市機能の強化に貢献する。さらに、広く市民に生涯学習の場を提供するため、公開講座の充実等に取り組むとともに、広島市職員、小中高等学校教員等の研修機関としての役割を積極的に果たす。</p>	<p>(1) 生涯学習ニーズへの対応 (小項目)</p> <p>ア 市民の生涯学習ニーズに対応するため、公開講座の開催、市民講座への講師派遣等に積極的に取り組む。また、リカレント教育（社会人が大学院等で高度な知識、技能を習得するための教育をいう。）を推進するため、社会人講座等の充実を図る。</p> <p>イ 休日、夜間に市民向けの講座等を開催するため、平和研究所等の施設を活用し、市中心部にサテライトキャンパスを設置する。</p>	<p>○公開講座の開催、市民講座への講師派遣</p> <p>○改善策の検討・実施</p>	<p>社会連携センターでは、「市大生チャレンジ事業」の実施を通じて学生による社会貢献の取組を支援した。採択事業の中には、例年実施される事業として定着したものもあり、地域から高い評価を得ている。また、成果発表の機会を工夫するなど地域での学びに係る教育効果の向上にも意を用いることにより、地域貢献に繋がる取組を促進した。</p> <p>以上のように、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
			<p>小項目評価</p> <p>○以下のとおり公開講座を開催するとともに、市民講座（シティカレッジ）への講師派遣を行った。受講者数計 1,434 名（平成25年度：976 名）、開催回数計 17 回（平成25 年度：13 回）と、前年度を上回る実績を挙げた。</p> <p>【開催実績】</p> <p>①県立広島大学との連携公開講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひろしま学を考える（7 月開催：延べ受講者数 593 名） ・社会人のための英語再チャレンジ（9～10 月開催：延べ受講者数 161 名） <p>②国際学部公開講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大衆文化を通じた国際交流（11 月 16 日開催：受講者数 33 名） <p>③情報科学部公開講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生のための情報科学ゼミナール（8 月 3 日開催：受講者数 27 名） ・高校生による情報科学自由研究（7～8 月開催：受講者数 44 名） ・実践情報科学セミナー（9 月 11 日開催：受講者数 5 名、9 月 16 日開催：受講者数 28 名） ・医用情報科学講演会（9 月 12 日開催：受講者数 33 名） <p>④芸術学部公開講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般向け（日本画、油絵、版画、彫刻、染織造形：7～9 月開催：受講者数 98 名） ・サマースクール（日本画、油絵、彫刻、デザイン工芸：7～8 月開催：受講者数 95 名） ・社会人向け工芸・版画技能講座（漆、金工、染織、版画：4 	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>生涯学習ニーズへの対応について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成26年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>～1月開催：受講者数15名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人向け工芸・版画技能講座夏季特別講座(漆、金工、染織、版画：受講者数4名) <p>⑤シティカレッジ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツによるまちづくり～広島市民とスポーツ～(12月開催：延べ受講者数75名) <p>⑥市大英語eラーニング講座(受講者数：第1期74名、第2期54名、第3期57名、第4期38名)</p> <p>○市大英語eラーニング講座を平成25年度の2回から平成26年度は4回に増加させ、受講機会を拡大した。また、情報科学部公開講座では、実務者を対象としたセミナーを初めて開催した。さらに、下半期からは、第2期中期計画の策定に向けた公開講座の見直しに着手した。</p> <p>以上のように、公開講座や市民講座への講師派遣などで質の高い取組を実施し、生涯学習ニーズへの対応について優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
	<p>(2) 「産学公民」連携の推進</p> <p><u>ア 地域産業界との連携(小項目)</u></p> <p>(ア) 社会連携センターを中心的な窓口として、企業等からの受託研究及び企業等との共同研究に積極的に取り組む。</p> <p>(イ) 先進的なICTシステムの構築により蓄積されたノウハウ等を、技術相談や技術支援等を通じて企業や地方自治体等に提供し、高等教育研究機関としてのリーダーシップを発揮する。</p>	<p>○受託研究・共同研究の推進</p> <p>○技術相談支援等の推進</p>	<p><u>小項目評価</u></p> <p>○社会連携センターでは、企業等の外部機関と教員とのマッチングを図ったほか、契約締結や知財管理、研究費の支出管理等の支援を行い、受託研究及び企業等との共同研究の推進に取り組んだ。また、11月には呉信用金庫と連携・協力に関する協定を締結し、呉地区の企業との連携推進のルートを広げた。</p> <p>【実績：()は平成25年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受託研究 件数：18件(20件) 研究費計：34,151千円(36,692千円) ・共同研究 件数：12件(14件) 研究費計：11,310千円(6,587千円) ・補助金 件数：2件(3件) 研究費計：78,650千円(36,464千円) <p>○地方自治体及び産業界への技術相談支援やイベントへのICT活用支援を行った(9件)。特に、広島市都市整備局西風新都整備部の実施した「超小型モビリティ(小型電気自動車)の導入に向</p>	a	<p>【評価理由】</p> <p>地域産業界との連携について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成26年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>けた実証実験」においては、大学の市政貢献プロジェクトとして位置情報記録システムの開発を行うなど、ICTの活用に大きく貢献した。</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方自治体や産業界への技術相談・支援数 広島県 3件 広島市 6件（企画総務局情報政策部情報政策課、都市整備局西風新都整備部等への技術相談・支援 等） ・広島市企画総務局情報政策部情報システム課からの協力研究員の受入れ（2名） <p>以上のように、地域産業界等との連携を積極的に推し進め、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
	<p>イ 国、地方自治体等との連携（小項目）</p> <p>(ア) 附属機関等の委員への就任、講師の派遣、行政課題の解決や人材育成等のための共同事業の実施等により、国、地方自治体、特に広島市との連携強化に取り組む。</p> <p>(イ) 広島市職員、小中高等学校教員等を大学院生、研究員等として受け入れるなど、広島市職員等の研修機関としての役割を積極的に果たす。</p> <p>(ウ) 財団法人広島平和文化センターと連携し、「広島・長崎講座」や市民向け講座への協力、平和記念資料館の展示等への学術支援等を行うなど、平和の推進に貢献する。</p> <p>(エ) 財団法人広島市文化財団と連携し、広島市現代美</p>	<p>○附属機関等の委員への就任、講師派遣</p> <p>○行政課題の解決、人材育成等のための共同事業の実施</p> <p>○広島市職員等を対象とした研修の実施</p> <p>○「広島・長崎講座」や市民向け講座への協力、平和記念資料館の調査や展示等への学術支援等</p> <p>○地域美術館との連携</p>	<p>小項目評価</p> <p>○附属機関等の委員への就任（125機関）及び講演会への講師派遣（31件）を行った。</p> <p>○広島市その他行政機関等との共同事業を実施した。</p> <p>【実績：（ ）は平成25年度実績】</p> <p>件数：17件（22件）、事業経費：23,322千円（21,277千円）（内訳）</p> <p>①広島市関係分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・件数：13件（14件） 受託研究：広島市5件、公益財団法人広島市みどり生きもの協会1件 市政貢献プロジェクト：6件 社会連携プロジェクト：1件 ・事業経費：19,994千円（15,237千円） <p>②その他行政機関等関係分受託研究、共同研究〔独立行政法人、公益財団法人〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・件数：4件（8件） ・事業経費：3,328千円（6,040千円） <p>○広島市研修センターと連携し、広島市職員を対象に英語力養成を目的とした本学の英語eラーニングプログラムを活用した「リーディング・リスニング・文法プログラム」を実施した。また、情報セキュリティや情報モラル、メディアの歴史などを学ぶ全学共通系科目「メディアと社会」を職員研修の一環として活用し、事務局職員が受講した。</p>	a	<p>【評価理由】</p> <p>国、地方自治体等との連携について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成26年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>術館との共同事業を行うなど、広島市の芸術振興に貢献する。</p> <p>(オ) 財団法人広島市産業振興センターと連携し、ICTをはじめとした様々な分野での技術支援を行い、広島市の産業振興に貢献する。</p> <p>(カ) 地域社会等と連携し、地域展開型の芸術プロジェクトを積極的に推進する。</p>	<p>○ICT関連機関への委員就任</p> <p>○ICT関連講演会への講師派遣、共同事業の実施</p> <p>○地域自治体や産業界への技術相談支援、イベントへのICT活用技術支援</p> <p>○地域展開型の芸術プロジェクトの実施</p>	<p>○平和研究所では、「広島・長崎講座」や市民向け講座への協力、広島平和記念資料館の展示等の学術支援等を行った。</p> <p>【実績：（ ）は平成25年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審議機関等の委員への就任：13機関（11機関） ・「広島・長崎講座」への協力：5講座（8講座） ・市民向け講座への協力：18回（18回） <p>また、芸術学部では、平和記念式典に参列する各国の大使等へ向け、「光の肖像」展（被爆者やその二世・三世の肖像画の展示）を開催した。</p> <p>○市内美術館にて「いちだい知のトライアスロン」関連事業として、一般市民も参加できる公開の講演会及びギャラリートークを開催した。これらの事業により芸術資料館の所蔵品を内外に周知し、所蔵品の貸出しや特別協力展示による連携にも進展が見られた。</p> <p>○ICTを始めとした技術支援については、情報処理センターにおいて、広島市企画総務局情報政策部情報システム課からの2名の協力研究員を受け入れる形で共同事業を実施した。また、本学、広島市、地場中小企業等が参画する「広島発高齢者見守り支援システム開発プロジェクト推進協議会」（みみスイッチ）において、ハードウェア・ソフトウェアの試作を行った。さらに、ICT関連の招待講演・基調講演・セミナー等、依頼に基づく講演を多数行った（日本語45件、外国語5件）。</p> <p>○芸術学部及び芸術学研究科では、学生主導型のプロジェクト5件、教員主導型のプロジェクト33件の合計38件に及ぶ地域展開型芸術プロジェクトを実施した。大きな取組として、大学と行政との協働による文化芸術創造活動拠点の設置・運営を通じた地域活性化事業である「基町プロジェクト」が挙げられる。その他、地域貢献の一環として大小様々なプロジェクトを実施し、芸術の社会的役割を広く地域に示した。</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月：広島市立中央図書館の企画展「広島の伝統的なものづくり」の銅^{ちゅう}蝨^{しゅう}展示協力 ART BASE 百島「100のアイデア、あしたの島。ーアートはより良い社会のために何ができるのか？ー」 ・8月：仙養ヶ原シンポジウム 「光の肖像」展 			

中期目標	中期計画	平成26年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>キッズキャンパス 広島市安佐動物公園エントランス及びライオン舎への壁画制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月：広島赤十字・原爆病院賞 ・10月：対馬アートファンタジア2014 アクア広島センター街40周年記念特別ディスプレイ『結び』 ・3月：猿猴橋復元事業モニュメント制作 <p>以上のように、各学部等において、国、地方自治体等との連携を積極的に推進し、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
	<p>ウ 学術機関及び研究機関との連携（小項目）</p> <p>(ア) 国際学部及び国際学研究科では、国内外の研究者との共同研究やプロジェクト研究等への参画を推進するとともに、研究交流を通じて、海外学術交流協定大学との連携強化に取り組む。また、関係機関と連携し、公開講座やインターンシップ等の充実を図る。</p> <p>(イ) 情報科学部及び情報科学研究科では、広島大学、広島工業大学との連携プログラム「医療・情報・工学連携による学部・大学院連結型情報医工学プログラム構築と人材育成」（平成21年度(2009年度)文部科学省採択事業）を推進し、情報科学、医学、工学の知識を有した人材を育成する。</p> <p>(ウ) 芸術学部及び芸術学研究科では、卒業修了制作展の開催等を通じ、広島市現</p>	<p>○共同研究、プロジェクト研究等への参画の推進</p> <p>○研究交流を通じた海外学術交流協定大学との連携強化</p> <p>○関係機関との連携による公開講座、インターンシップの充実</p> <p>○情報医工学プログラムの評価及びプログラム内容等の改善</p> <p>○広島市現代美術館における卒業修了制作展の開催</p>	<p>小項目評価</p> <p>○国際学部及び国際学研究科では、国内外の研究者と共同研究（53件）、プロジェクト研究（7件）を実施した。また、学術交流協定大学であるハワイ大学マノア校（アメリカ）の短期語学特別研修に参加した。さらに、平和学の学術交流を念頭において、ブラッドフォード大学（イギリス）からクリストファー・ブース教授を招聘し、公開シンポジウム「平和研究とヒロシマーその展望と課題」を開催した。その他、関係機関との連携の下、公開講座、インターンシップ等を実施した。広島東洋カープアカデミーオブベースボール（ドミニカ共和国）や在日本米国大使館・総領事館へのインターンシップは、本学独自の取組として定着し、優れた教育効果を挙げた。</p> <p>○情報科学部及び情報科学研究科では、他大学との連携の下、情報医工学プログラム及び臨床情報医工学プログラムを実施し、医用・情報・工学を横断的に理解する専門家の育成に取り組んだ。</p> <p>＜情報医工学プログラム＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年目のプログラムを実施し、本学が提供する講義の受講者数は3大学16名であった。 ・本学から14名の学部生が広島大学の「医療系実習」を受講した。 ・本学の学部生10名が情報医工学プログラムを修了した。 ・プログラムを受講した医用情報科学科（3年目）の3年生2名が、早期卒業制度を利用し大学院に進学した。 <p>＜臨床情報医工学プログラム＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学が提供する学士課程の講義の受講者数は4大学46名、大学院課程は1名であった。 	a	<p>〔評価理由〕 学術機関及び研究機関との連携強化について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕 ○情報科学部及び情報科学研究科の他大学との連携プログラムは、「広島都市圏」の新たなあり方を示唆する取組である。</p>	A

中期目標	中期計画	平成26年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>代美術館等の地域の美術館との連携強化に取り組む。</p> <p>(エ) 平和研究所では、国内外の大学及び研究機関との連携を一層強化するため、共同研究の実施やプロジェクト研究等への参画を通じた研究交流の推進</p> <p>○被爆70周年記念事業の準備（再掲）</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・本学から28名の学部生が「早期医療体験実習」を受講した。 ・学部生向け講義として本学が提供する「医用情報科学」を新規に開講した（4大学39名が受講）。 <p>〈両プログラム共通〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度の大学院医用情報科学専攻の立上げに向け、カリキュラムの整備、情報科学部棟・情報科学部棟別館内の専攻ごとのスペース配分の見直し、教員選考などの準備を進めた。 ・医用情報科学専攻を担当予定の教員が、プログラムのFD・SD研修会・成果発表会及び情報科学部公開講座「医療の未来を切り拓く医用情報科学」で講演等を行った。 ・本学のオープンキャンパス及び第47回霞祭（広島大学医学部・歯学部・薬学部の大学祭）において、プログラム受講者が制作した模擬医療機器の展示・デモンストレーションを実施した。 ・プログラムの4大学合同合宿研修を実施した。 <p>○芸術学部・芸術学研究科では、学生と教員による卒展委員会を組織し、広島市現代美術館学芸員との協議などを行い、卒業・修了作品展を開催した。広島市現代美術館会場への来場者数は1,829人で、学内会場（935名）とともに過去10年間で最高となり、本学と広島市現代美術館双方の活動活性化に繋がった。</p> <p>○平和研究所では、国内外の大学及び研究機関との連携を一層強化するため、核・軍縮研究会（10回）、人間の安全保障研究会（8回）、信頼醸成研究会（4回、うち1回はソウルで開催）の3つの共同研究会を実施した。また、被爆70周年記念事業として、同研究所が3つの事業（日本平和学会春季研究大会の開催、平和・安全保障事典の編さん、ヒロシマ70平和セミナーの開催）を予定しており、いずれも全研究員が企画に参加し実施に向けて準備を進めた。</p> <p>以上のように、各学部等において学術機関及び研究機関と連携し、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
	<p>エ 小中高等学校等との連携 （小項目）</p> <p>(ア) 市内の小中高等学校に対する学習支援、教員のリフレッシュ教育（大学、大学院等の高等教育機関が、職業人に職業上の知識、技</p>	<p>○市内の小中高等学校に対する学習支援の実施</p>	<p>小項目評価</p> <p>○学習意欲に富む小中高生等に対する学習支援・教育活動を行った。</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キッズキャンパス：幼児・児童を対象に芸術制作を体験する機会を提供 ・ひろしまコンピュータサイエンス塾：小学生に情報科学の先 	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>小中高等学校との連携について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 26 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>術を新たに修得させることを目的とした事業をいう。)等に取り組む。</p> <p>(4) 広島市職員、小中高等学校教員等を大学院生、研究員等として受け入れるなど、広島市職員等の研修機関としての役割を積極的に果たす。(再掲)</p> <p>(3) 社会連携センターの機能の充実</p> <p>ア 社会連携センターの体制整備(小項目)</p> <p>多様化する「産学公民」連携のニーズに迅速に対応し、効果的に事業を実施するための組織体制を整備する。</p> <p>イ 学部及び研究科の「産学公民」連携や社会貢献の取組に対する支援(小項目)</p> <p>(7) 展示会への出展やメールマガジンの配信等様々な広報活動を通じて、研究成果や知的財産等の内容を積極的に発信するとともに、地域住民、産業界、行政等のニーズとのマッチングを行う。</p> <p>(4) 「産学公民」連携推進の</p>	<p>○広島市職員等を対象とした研修の実施(再掲)</p> <p>○展示会への出展等の広報活動、技術相談の実施</p> <p>○セミナー、フォーラム</p>	<p>端知識・技術に触れる機会を提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術学部サマースクール：中高生対象の日本画、油絵、彫刻、デザイン工芸講座を開催 ・高校生のための情報科学ゼミナール、高校生による情報科学自由研究を開催 <p>高校生のための情報科学ゼミナールは、広島県教育委員会と協力して、県内高等学校を集めた説明会において広報を行い、平成 25 年度よりも倍近くの参加があった。</p> <p>そのほか、広島県科学オリンピック開催事業への協力、教育ネットワーク中国や広島市教育委員会を通じた高大連携講座の開催、高校での模擬授業の実施等にも取り組んだ。</p> <p>以上のように、小中高等学校等との連携を強化するための多彩な事業を実施し、参加者等から高い評価を得たことから、優れた取組を実施したものとして、「a」と評価した。</p>			
			<p>小項目評価</p> <p>○展示会への出展等の広報活動や技術相談の実施等を通じて、研究成果や知的財産等の内容を積極的に発信するとともに、地域住民、産業界、行政等のニーズとのマッチングを行った。また、社会連携コーディネーターを窓口として、技術相談を実施した。</p> <p>【出展等実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月：イノベーション・ジャパン 2014 (東京) ・10月：中国地域さんさんコンソ新技術説明会 (東京) ・11月：新技術説明会 in 広島 (広島) <p>広島県信用金庫合同ビジネスフェア 2014 (広島)</p> <p>【技術相談】(随時実施)</p> <p>相談件数：66 件 (平成 25 年度：83 件)</p>	b	<p>【評価理由】</p> <p>「産学公民」連携の強化や社会貢献の推進のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p>	B

中期目標	中期計画	平成26年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>ためのセミナーや大学と地域住民、産業界、行政等との交流促進を目的としたフォーラム等を開催する。</p> <p>(ウ) 学外の関係機関等と連携した教育研究活動等を支援する。</p> <p>(エ) 地域住民や行政等が抱える課題の解決への貢献を目的とした「社会連携プロジェクト」を学内で公募し、その取組を支援する。</p>	<p>等の開催</p> <p>○セミナー、フォーラム等の評価</p> <p>○学外研究機関との教育研究活動等の支援</p> <p>○社会連携プロジェクトの公募、取組支援</p>	<p>○「産学公民」連携推進のための展示会（講演会も併せて実施）を開催した。</p> <p>【開催実績：（ ）は平成25年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月：産学連携研究発表会 [来場者数：約160名（約150名）] ・1月：広島市立大学の地域貢献事業発表会 [来場者数：約150名（約150名）] <p>○経済産業省所管の独立行政法人工業所有権情報・研修館が行う「広域大学知的財産アドバイザー派遣事業」に重点支援校として参画し、知的財産に関する課題解決への取組を進めた。さらに、文部科学省から採択を受けた補助事業「革新的イノベーション創出プログラム（研究リーダー：広島大学）」及び「大学等シーズ・ニーズ創出強化支援事業（事業責任者：広島大学）」に参画し、研究活動の一層の推進を図った。</p> <p>○地域住民や行政等が抱える課題の解決への貢献を目的とした「社会連携プロジェクト」を学内で公募し、その取組を支援した。</p> <p>【実績：（ ）は平成25年度実績】</p> <p>応募件数：8件（6件）、応募総額：6,872千円（5,623千円） 採択件数：3件（4件）、採択総額：1,924千円（2,018千円）</p> <p>以上のように、学部及び研究科等の「産学公民」連携や社会貢献の取組に対する支援を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>			
	<p>ウ 研究成果、学内資源等の活用（小項目）</p> <p>知的財産の創出に取り組むとともに、学内資源等を適切に管理し、最大限活用するため、社会連携の基本方針を定めた「社会連携ポリシー」を策定する。</p>	○知的財産の創出の推進	<p>小項目評価</p> <p>○特許出願や登録などにより、知的財産の創出に取り組んだ。また、7月から毎月1回、芸術学部の社会連携委員会委員を対象に、知的財産管理に関するセミナーを開催したほか、知的財産管理をテーマにFD・SDセミナーを2回（12月、3月）実施した。</p> <p>【実績：（ ）は平成25年度実績】</p> <p>特許出願：11件（19件）、審査請求：6件（2件）、特許登録：1件（7件）、商標登録：1件（4件）</p> <p>※特許出願11件のうち、企業との共同による発明に係るもの：6件、高齢者見守り支援システム開発関連：2件</p> <p>以上のように、研究成果、学内資源等の活用について計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	【評価理由】 研究成果、学内資源等の活用のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。	B
	<p>エ 学生の育成（小項目）</p>	○「学生による社会貢献	<p>小項目評価</p>	a	【評価理由】	A

中期目標	中期計画	平成26年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
5 国際交流に関する 目標 海外学術交流協定 大学との人材交流を 積極的に展開すると ともに、留学生への支 援体制の充実を図る。	<p>「学生による社会貢献型 自主プロジェクト」事業を 実施し、学生に自主性や問 題解決能力を身に付けさせ る。</p> <p>5 国際交流（大項目）</p> <p>(1) 海外学術交流協定大学と の人材交流の積極的な展開 （小項目）</p> <p>ア 各学部の特色を十分に生 かし、海外学術交流協定大 学の学生にとって魅力ある</p>	<p>型自主プロジェクト」 事業の実施</p> <p>○受入学生増加のための 対応策の具体化・実施</p>	<p>○「学生による社会貢献型自主プロジェクト事業」を「市大生チャレンジ事業」に名称変更し、学生が自主的に計画するプロジェクト以外に、地域などから提案されたテーマについても学生が取り組むことができる制度とした。</p> <p>また、学内報告会だけでなく、広島市役所での「広島市立大学の地域貢献事業発表会」において、新たに学生による発表の機会を設けた。これにより、学生のプロジェクト実施への意欲を高め、かつ、広島市に対しても学生の活動が見える形にした。</p> <p>【実績：（ ）は平成25年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応募件数：6件（7件）、応募総額：586千円（601千円） ・採択件数：6件（6件）、採択総額：586千円（383千円） <p>以上のように、制度の改善により学生に対する教育効果の向上を図るとともに、実施した事業について受講者や参加者からも高い評価を受けたことから、優れた取組を行ったものとして、「a」と評価した。</p>		<p>学生の育成について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○取組内容の質を向上させたと認められる。</p>	
			<p>大項目評価</p> <p>学術交流協定については、梨花女子大学校（韓国）、西京大学校（韓国）、オルレアン大学（フランス）及びベルリン・バイセンゼー芸術大学（ドイツ）との協定を更新した。</p> <p>受入留学生に対しては、オリエンテーションや日常的な対応を含め、国際交流推進センター職員が懇切・丁寧な指導を行うとともに、「留学生のための学生ボランティアアドバイザー制度」を活用し、日本人学生による留学生の支援を行った。これらの取組により、留学開始直後の諸手続をスムーズに進めるとともに、留学生が日本での生活に早く順応することができるよう努めた。また、広島県主催の「海外共同リクルーティング事業」に2回（ベトナム、韓国）参加し、現地において本学への留学生受入れに関する情報提供を行った。</p> <p>国際交流推進センターを中心にこうした取組を推進し、受入留学生数は平成25年度の97名から平成26年度は106名へと増加した。</p> <p>以上のように、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>国際交流全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○単なる協定の増加にとどまらず、実質的な「交流」をどう深めるかに一層の意を用いてもらいたい。</p>	A
			<p>小項目評価</p> <p>○平成25年度に設置した国際交流推進センターを中心に、魅力ある受入校となるため、以下のような取組を推進した。</p> <p>受入留学生に対して、オリエンテーションや日常的な対応を含め、国際交流推進センター職員が懇切・丁寧な指導を行った。また、日本人学生が留学生の支援を行う「留学生のための学生ボラ</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>海外学術交流協定大学との人材交流について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p>	A

中期目標	中期計画	平成 26 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>受入校となるための取組を進め、受入学生数を増やす。</p> <p>イ 学生及び教員のニーズを探りながら、魅力ある海外の大学との新たな学術交流協定の締結に取り組み、派遣学生数を増やす。</p>	○協定締結に向けた相手校との具体的な交渉	<p>ンティアアドバイザー制度」の活用を図った（平成 26 年度ボランティアアドバイザー登録学生数：22 名）。これらの取組により、留学開始直後の諸手続をスムーズに進めるとともに、留学生在日本での生活に早く順応することができるよう努めた。</p> <p>また、広島県主催の「海外共同リクルーティング事業」に 2 回（ベトナム、韓国）参加し、現地において本学への留学生受入れに関する情報提供を行った。</p> <p>こうした取組の結果、受入留学生数は平成 25 年度の 97 名から平成 26 年度は 106 名へと増加した（各年度 11 月 1 日現在）。</p> <p>○梨花女子大学校（韓国）、西京大学校（韓国）、オルレアン大学（フランス）及びベルリン・バイセンゼー芸術大学（ドイツ）との学術交流協定を更新した。なお、継続的な学術交流が見込まれる西京大学校及びベルリン・バイセンゼー芸術大学は、今後は協定を自動更新するよう条項を見直した。</p> <p>新規の学術交流協定締結に向け、ポーンマス芸術大学（イギリス）及びワインガートン教育大学（ドイツ）等と交渉中である。</p> <p>以上のように、海外学術交流協定大学との人材交流の積極的な展開を行ったことから、優れた取組を実施したものとして、「a」と評価した。</p>		○取組状況は良好である。	
	<p>(2) 留学生への支援体制の充実（小項目）</p> <p>ア 国際的に魅力ある留学生受入れプログラムを整備し、独立行政法人日本学生支援機構の留学生交流支援制度等の奨学金を申請する。</p> <p>イ 国際交流に関する専任スタッフの配置等により、留学生の進学、就職相談等の留学生支援体制の充実を図る。</p> <p>ウ 留学生の様々なニーズに応じた助言やサポートを行うため、アドバイザー制度等を整備する。</p>					

中期目標	中期計画	平成26年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標	エ 海外に留学した学生の体験談等をデータベース化し、海外留学希望者に情報を提供する。					
	第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置（大項目）		大項目評価 事務マニュアルの作成及び定期的な見直し・更新により、事務処理の内容及び方法に係る点検を行うとともに、危機管理の一環として、施設の ^か 疵や学校教育活動に起因して損害賠償責任を負う場合に適用される損害保険へ加入した。 また、平成26年4月に大幅な組織改正を行い、新たな事務組織の下で効果的かつ効率的な事務処理に取り組んだ。特定部署の繁忙期には、他部署の職員が業務応援を行うなど、組織の枠を越えた柔軟な対応に努めた。 以上のように、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。	a	〔評価理由〕 業務運営の改善及び効率化全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。	A
1 運営体制に関する目標	1 運営体制（小項目）					
(1) 機動的な運営体制の構築 理事長（学長）がリーダーシップを発揮できる意思決定システムの構築等により、全学的かつ中長期的視点から戦略的かつ機動的な大学運営を行う。	(1) 機動的な運営体制の構築 ア 理事長を補佐する理事の役割分担を明確にするとともに、理事長及び理事を支援する事務組織体制を整備する。 イ 理事長、理事、学部長等が定期的に協議し、幅広く意見を収集するための仕組みを構築する。 ウ 全学的かつ中長期的視点から戦略的かつ機動的に人員配置、予算配分等を行う仕組みを構築する。 エ 教職員が一体となって企画・立案・実施に参画する大学運営の仕組みを構築する。					
(2) 社会に開かれた大学づくりの推進	(2) 社会に開かれた大学づくりの推進					

中期目標	中期計画	平成26年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>積極的な広報や大学運営への学外有識者の参画により、社会に開かれた大学づくりを推進する。</p> <p>(3) 監査制度の活用による法人業務の適正処理の確保等 公立大学法人の監査制度を活用し、法人業務の適正処理の確保及び大学運営の改善に努める。</p> <p>2 人事に関する目標 広島市立大学の教育研究、社会貢献等を活性化させるため、公立大学法人制度の利点を生かした柔軟な人事制度や多面的な教員評価制度を構築する。</p>	<p>ア 積極的な広報 (ア) ホームページの内容の充実を図るとともに、管理及び運用のためのルールを整備する。(再掲) (イ) 全学的視点から積極的な広報を行うための体制を整備する。 (ウ) 大学の「年報」を作成する。 (エ) 刊行物のデータベースを構築し、ホームページ等で公開する。</p> <p>イ 大学運営への学外有識者の参画 理事や経営協議会の委員に学外有識者を積極的に登用する。</p> <p>(3) 監査制度の活用による法人業務の適正処理の確保等 ア 会計監査人の協力を得て、監事を中心とした実効性のある監査体制を整備する。 イ 監査結果を大学運営の改善に反映させる仕組みを構築する。</p> <p>2 人事(小項目) (1) 柔軟な人事制度の構築 ア 特任教員等の任用制度を導入する。 イ 裁量労働制を導入する。 ウ 兼職・兼業に係る許可基準を新たに作成する。 (2) 教員評価制度の構築 ア 教員活動情報の外部への</p>					

中期目標	中期計画	平成26年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
3 事務処理に関する 目標 業務内容の変化に柔軟に対応し、定期的な業務改善や事務組織の見直し等に取り組むことにより、効果的かつ効率的な事務処理に努める。	<p>公開を前提とした多面的な視点による教員評価制度を導入する。</p> <p>イ 教員評価の結果を人事等に反映させる仕組みを構築する。</p> <p>3 事務処理（小項目）</p> <p>(1) 事務処理の内容及び方法について、定期的な点検を実施し、必要に応じて改善を行う。</p> <p>(2) 業務内容の変化に柔軟に対応し、効果的かつ効率的な事務処理ができるよう、事務組織の定期的な見直しを行う。</p> <p>(3) 全学的な課題等について組織横断的に取り組むための体制を整備する。</p>	<p>○事務処理の内容及び方法に係る点検の実施</p> <p>○事務組織の定期的な見直し</p>	<p>小項目評価</p> <p>○平成25年度から平成27年度までの3か年で計画的に事務マニュアルを作成している。また、このマニュアルを定期的に見直し、更新することにより、事務処理の内容及び方法に係る点検を行った。この取組の結果、職員の人事異動に係る事務引継を迅速かつ円滑に行うことができた。</p> <p>さらに、本学の危機管理の一環として、損害保険への加入が課題であったが、保険仲立人方式を採用し、施設の瑕疵や学校教育活動等に起因して損害賠償責任を負う場合に適用される損害保険に加入した。</p> <p>○平成26年4月に大幅な組織改正を行い、効果的かつ効率的な事務処理体制が整備できているとの評価から、平成27年度は組織改正は不要と判断した。</p> <p>なお、特定部署の繁忙期には、他部署の職員が業務応援を行うなど、組織の枠を越えた柔軟な協力体制により、効率的な事務処理に努めた。</p> <p>以上のように、安定的かつ効率的な事務処理の推進に寄与し、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>事務処理の改善等について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○職員の多能化への取組は素晴らしい、是非強化すべきである。一方で、報酬への反映方法を模索すべきである。</p>	A
			<p>大項目評価</p> <p>自己収入の増加及び管理経費の抑制を図るための取組を着実に実施した。</p> <p>広島市中心部に開設したサテライトキャンパスを活用した各種公開講座の開催や、学内施設の一時貸付け等による多様な収入の確保に努めた。</p> <p>教育研究水準の維持向上に配慮しつつ、管理費の抑制に努めるため、省エネルギー対策を推進するとともに、エネルギー使用量の最適化を図るための施設改修を実施した。その結果、電気、ガス、水道の使用量について、対前年度比3.8～8.7%の削減を実現した。また、臨時職員の配置や雇用形態について継続して見直しを行い、事務局全体で適正な配置となるよう努め、組織運営の効率化に取り組んだ。</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>財務内容の改善全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A
第4 財務内容の改善に関する目標	<p>第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置（大項目）</p>					

中期目標	中期計画	平成26年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
1 自己収入の増加 教育研究環境を向上させるため、外部資金の積極的な獲得に取り組むなど、自己収入の増加を図る。	1 自己収入の増加（小項目） (1) 外部資金の獲得に取り組むため、外部資金に関する情報収集や申請、受入等に対する支援体制を強化する。 (2) 公開講座の拡充や大学が保有する施設、設備、機器、作品等の活用により、多様な収入の確保を図る。 (3) 授業料等学生納付金をはじめとする業務に関する料金について、他大学の動向や社会経済情勢、法人の収支状況等を考慮した適切な料金設定を行う。	○サテライトキャンパスの積極的な活用等 ○多様な収入の確保 ○授業料等の料金設定の検証	以上のように、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。			
			小項目評価 ○新たに開設したサテライトキャンパスを活用し、平成26年度からは、市大英語eラーニング講座の実施回数を年2回から年4回に拡充するなど、各種公開講座の開催により受講料収入を得た。 ○各種公開講座の開催や学内施設の一時貸付けにより、多様な収入の確保に取り組んだ。 ○平成26年4月に消費税及び地方消費税の税率の引上げが行われたが、他大学の動向等も踏まえた授業料等の料金設定の検討を行い、平成27年度も同額の料金設定とすることとした。 なお、「平成26年8月豪雨災害」により被災した受験者等に対し、平成27年度入試における入学検定料免除及び入学科減免の特例措置を導入した。 以上のように、自己収入の増加を図るための取組を計画的に着実に実施したことから、「b」と評価した。	b	〔評価理由〕 自己収入の増加を図るための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。	B
2 管理経費の抑制 全学的視点から、業務運営の効率化、人員配置の適正化等に努め、管理経費の抑制を図る。	2 管理経費の抑制（小項目） (1) ICTの活用による業務の効率化、光熱水費等の節減、教職員一人一人のコスト意識を高めるための研修の実施等により管理経費の抑制を図る。 (2) 教育研究水準の維持向上に配慮しながら、組織運営の効率化、非常勤教職員も含めた人員配置等について、定期的な見直しを行う。	○省エネルギー対策の啓発、管理経費の抑制 ○エネルギー使用量の最適化を図るための施設改修に係る検討 ○教職員配置等の見直し	小項目評価 ○省エネルギー対策の啓発及び管理経費の抑制に係る取組を引き続き実施し、電気、ガス、水道の使用量について、対前年度比3.8%～8.7%の削減を実現した。 【実績】 ①教職員に対して省エネルギー対策への取組の徹底を周知 ②省エネルギー対策の一環として、8月15日を全学休業日に設定 ③冷暖房の適切な運転管理を実施 ④節水対策として、芝生広場への散水に湧水を利用 ⑤クラウドコンピューティングを活用した各種照明点灯時間等の運用制御を実施 ⑥外灯点灯時間を日没30分前から日没時に変更 ⑦池の水に雨水を利用 ⑧芸術学部棟のガス空調機器を一部更新 また、10月から運用を始めた新学内情報システムにおいて、サーバ類や実習室の端末を私用クラウド構成とし、学内に設置していたサーバを学外データセンターに移設することにより、電力使用量の削減を図った。 これにより、情報処理センターでの消費電力は96kWから19kWに	a	〔評価理由〕 管理経費の抑制を図るために優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。	A

中期目標	中期計画	平成26年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>減少し、学外データセンター分を含めても48kWと大幅な削減を達成できた。※私用クラウド：自己の保有するサーバに複数のサーバを仮想的に構築する技術</p> <p>○エネルギー使用量の最適化を図るため、次のような施設改修の検討を行った。</p> <p>①トイレの節水（擬音装置、節水型自動洗浄機能の整備）</p> <p>②照明器具のLED化推進</p> <p>また、検討した2点について、次のとおり対応した。</p> <p>①各学部棟等のトイレの洋式化に際し、トイレの節水化（擬音装置、節水型自動洗浄機能の整備）を合わせて行った。</p> <p>②平成27年度の語学センター第2期改修に際し、一部教室の照明器具をLED化することとした。</p> <p>○教務関係の執行体制の強化及び国際交流の一層の推進を図るため、以下のとおり新たな副理事を配置することとした。</p> <p>①教務担当副理事を配置</p> <p>②国際交流担当副理事を配置</p> <p>また、プロジェクト研究推進室を大学敷地内へ移転させることに伴い、当室に配置している教員1名を、平成27年度から情報科学研究科へ配置換えし、教員配置の適正化と効率化に努めた。</p> <p>さらに、臨時職員の配置や雇用形態について平成24年度から継続して見直しを行い、事務局全体で適正な配置となるよう努め、組織運営の効率化に取り組んだ。</p> <p>以上のように、管理経費の抑制に向けた優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
<p>第5 自己点検及び評価に関する目標</p> <p>自己点検、自己評価及び第三者機関による評価を定期的実施することにより、大学運営の改善に努める。また、評価に関する情報を積極的に公開する。</p>	<p>第5 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置（大項目）（小項目）</p> <p>1 定期的に自己点検及び自己評価を行う体制を整備する。</p> <p>2 自己点検、自己評価及び第三者機関による評価の結果を、大学運営の改善のために活用する仕組みを構築する。</p> <p>3 自己評価及び第三者機関による評価に関する情報をホー</p>					

中期目標	中期計画	平成 26 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
第 6 その他業務運営に関する重要目標	<p>ムページ等で積極的に公開する。</p> <p>4 教員活動情報の外部への公開を前提とした多面的な視点による教員評価制度を導入する。(再掲)</p> <p>5 教員評価の結果を人事等に反映させる仕組みを構築する。(再掲)</p> <p>第 6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置(大項目)</p>					
	<p>1 施設及び設備の適切な維持管理等(小項目)</p> <p>(1) 施設及び設備の効率的な維持管理を行うとともに、その利用状況を把握し、有効活用を図る。</p> <p>(2) 教育研究機能の充実を図るため、未利用の大学隣接地へのセミナーハウス、学生寮、留学生受入施設等の新たな施設整備について検討する。</p>	<p>○施設・設備の効率的な維持管理の実施</p> <p>○大学職員用法人所有住宅の使用料算出方法の見直し</p>	<p>大項目評価</p> <p>施設の維持修繕の効率的な実施や省エネ設備の導入推進のため、「広島市立大学保全計画」の策定に取り組み、大規模施設保全に係る優先順位の検討及び概算費用の試算等を行うとともに、自動火災報知設備の更新やトイレの洋式化、芸術を用いた特色ある歩道橋の整備等を実施し、施設及び設備の適切な維持管理等に努めた。</p> <p>また、定期健康診断の受診勧奨や職場巡視等の実施、教職員を対象としたハラスメントの防止に関する研修の開催等、安全で良好な職場環境の確保に向けて大きな実績を挙げた。</p> <p>以上のように、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>その他業務運営に関する重要目標を達成するために優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A
1 施設及び設備の適切な維持管理等	<p>快適なキャンパス環境を確保するため、既存の施設及び設備の適切な維持管理と有効活用、機能拡充のための施設及び設備の整備に取り組む。</p>		<p>小項目評価</p> <p>○施設・設備の効率的な維持管理に取り組んだ。</p> <p>①建築年数の経過とともに今後必要となる施設の維持修繕の効率的な実施や省エネ設備の導入推進のため、「広島市立大学保全計画」の策定に着手し、大規模施設保全に係る優先順位の検討及び概算費用の試算などを平成 25 年度に引き続いて実施した。</p> <p>②大学全体の自動火災報知設備の更新を行うとともに、故障して利用できなくなった芸術学部棟空調機器の一部(室外機:2、室内機:12)について更新を行った。</p> <p>③「市立大学前歩道橋」の整備に併せ、第2駐車場の区画線や歩道の整備を行い、学生や受験生等の安全性を向上させた。また、歩道橋へは、本学出身のアーティストによるグラフィティを施し、芸術学部を有する大学として特色あるものとなるよう工夫した。</p> <p>④講義棟(10か所)、芸術学部棟(2か所)や情報科学部棟別館(6か所)などのトイレ洋式化(計20か所)を行うとともに、</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>施設及び設備の適切な維持管理について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 26 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
2 安全で良好な教育 研究環境の確保 学生や教職員の安全衛生管理、人権に関する意識の向上を図るとともに、災害等不測の事態に適切に対応できる体制の整備に取り組むことにより、安全で良好な教育研究環境を確保する。	2 安全で良好な教育研究環境の確保（小項目） (1) 災害等不測の事態に適切に対応できるよう、危機管理マニュアルを作成する。 (2) 安全衛生管理に関する研修等を定期的実施する。 (3) 定期健康診断等の実施により、教職員の健康管理を適切に行う。 (4) セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント等を防止するための研修等を実施する。	○安全衛生管理研修、職場巡視等の実施 ○衛生管理者の養成 ○定期健康診断等の実施 ○ハラスメントに関する研修の実施	併せて節水機能（擬音装置、節水型自動洗浄機能）の整備を行った。 ⑤学内視察等で利用する講堂小ホールや本部棟大会議室のプロジェクターを、高輝度で点灯までの時間が短いレーザー光源型のものへと更新を行い、利便性の向上を図った。 ○国の制度改正等を踏まえ、大学職員用法人所有住宅の使用料の見直し（増額）を行い、平成 27 年 10 月から新たな使用料を適用することとした。なお、大学職員用法人所有住宅においては、老朽化を踏まえ、予防保全を目的とした外壁・屋根等の修繕を実施し、適切な維持管理に努めている。 以上のように、施設・設備の効率的な維持管理に係る優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。			
			小項目評価 ○安全衛生管理研修、職場巡視等を実施した。 ・計 6 回の職場巡視を実施し、不用物品の廃棄、整理整頓を徹底し、諸室の効率的利用に努めた。 ・不用物品の廃棄を確実にするため、コンピュータ関係、什器関係と、廃棄物の内容に応じた廃棄スケジュールを作成して実施した。 ・学内の喫煙場所を 1 か所削減した。 ・11 月に健康管理等に関する講演会を開催した。 ○衛生管理者の増員に向けた取組として、衛生委員会からの推薦者 1 名が 12 月に衛生管理者試験を受験し、第一種衛生管理者資格を取得した。 ○教職員に対し定期健康診断、特殊健康診断（特殊健康診断は年 2 回、1 回目は 8 月に、2 回目は 2 月に実施。）を実施するとともに、1 月に VDT 作業従事教職員健康診断を実施した。また、教職員がストレスチェックを行うことができるウェブサイトやメンタルヘルスの相談窓口を紹介した。 なお、定期健康診断未受診者に対し、事務局担当職員等が受診勧奨を続けた結果、最終的な定期健康診断受診率は 98.2%に達した。 ○4 月に学生向けチラシの配付（新入生オリエンテーション時、学年別ガイダンス時）を行った。また、教職員向けのハラスメント対応マニュアルの作成に取り組むとともに、3 月にグループワークを取り入れた研修を実施した。	a	〔評価理由〕 安全で良好な教育研究環境を確保するために優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。	A

中期目標	中期計画	平成 26 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>さらに、附属図書館に研修教材（テキスト、DVD）を購入し、平成 27 年度からそれらの教材等を活用した学部ごとのハラスメント研修を行うこととした。</p> <p>以上のように、安全で良好な教育研究環境を確保するための優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			

広島市公立大学法人評価委員会 委員名簿

職名	氏名	現職等	備考
委員長	平澤 洽	東京大学名誉教授	
委員	金田 晋	広島大学名誉教授	
委員	下中 奈美	弁護士	
委員	角廣 勲	株式会社広島銀行会長	
委員	最上 敏樹	早稲田大学教授	